



# Web Fairy Paradise

改訂版 2010/6/24

## 第24号

### 今月のフェアリー詰将棋

- ・ 第23回WFPフェアリー作品展
- ・ 推理将棋34回出題
- ・ OFM 第160回出題
- ・ 第8回詰四会フェアリー作品展
- ・

### 結果発表

- ・ 第21回WFPフェアリー作品展
- ・ 第22回WFPフェアリー作品展
- ・ OFM 第159回出題
- ・ 推理将棋第33回出題
- ・ Fairy of the Forest#23
- ・ 1手詰？コンクール

### 読み物

- ・ お便りより続報
- ・ 集積回路Ⅲが蘇る！？
- ・ 妖精賞の系譜（11）



2010/6

## はじめに

ワールドカップが始まり、日本もここまで1勝1敗と頑張っています。次のデンマーク戦で引き分け以上で予選突破でこれは楽しみです。直前の練習試合では連敗していただけに期待はしていなかったのですが立て直してくれたのは素晴らしいことですね。

先日インターネットを見ていたらこうすれば相手に点を取られないという作戦が書かれてました。ゴールの前に10人並ぶというものなるほどと思いましたが、これが一番と思うのが下の作戦です。ボールの廻りに選手が輪になって相手にボールを触らせないというもの。これで90分経てば引き分けだ～～。

○=日本

●=ボール



スポーツマンシップはどこに・・・(笑)

さて先月号暫定版を発行したあとに紅月さんより第21回 WFP フェアリー作品展結果稿受領後正規版を出す予定でしたが、紅月さんのPCの不調によりそれが叶いませんでした。楽しみにお待ち頂いた方々には本当に申し訳ありませんでした。心よりお詫び申し上げます。今月号において21回、22回と2回分の結果を載せております。9千手超の大作は残念ながら余詰だったようですが、正解手順、余詰順すべて載せておりますので内容を吟味いただければと思います。

詰パラでは多分、来月2009年度の妖精賞が発表されることでしょうか。皆さんの予想はどうでしょうか？

全国大会において妖精賞を看寿賞と同じく表彰していただくのが私の希望ですがそれは叶うのでしょうか？今年はずり自身、参加致しませんが、その点が気になることです。

## 【募集】

### 作品

フェアリー作品、PG、推理将棋はそれぞれの投稿先へ投稿下さい。

### 読み物

フェアリー詰将棋に関するものに限らず日常のことも研究物でも4コマ漫画からパロディ、イラスト、マイベスト10、自己紹介、何でもOKです。

### 感想

第24号の感想、今後の要望、ご意見等なんでも結構です。是非メールにて私まで皆様の反応が私の意欲に成りますので是非ご協力をお願いします。

読み物、感想の投稿はこちらまで

たくぼん：[takuji@dokidoki.ne.jp](mailto:takuji@dokidoki.ne.jp)

### 協力いただいている方々のHPアドレス

\* ご協力感謝します

#### 妖精都市

<http://www.geocities.jp/cavesfairy/>

#### 詰将棋メモ

<http://toybox.tea-nifty.com/>

#### 詰将棋おもちゃ箱

<http://www.ne.jp/asahi/tetsu/toybox/>

#### Onsite Fairy Mate

<http://www.abz.jp/~k7ro/>

#### K.Komine's Home Page

<http://19900504.web.fc2.com/index.html>

#### イラスト・素材提供：幻想素材サイトFirst Moon

<http://www.first-moon.com/>

\* 表紙のイラストを使用させて頂いております。

[ 作品投稿要項 ]

- 1) 作品投稿は随時受け付けています
- 2) ルールは不問です。フェアリー系ルールならばかしこでも可です( 安南詰 etc)
- 3) FM 等で検討済みの場合はその旨を付記して下さい
- 4) FM 等で検討出来ない場合は検討の手伝いをします

[ 解答要項 ]

解答締切：平成21年 7 月 15 日

本作品展は、正式発表とし TOP IX の対象となります。また解答のコメントは結果発表にて掲載いたしますのでご了承下さい

作品投稿及び解答は

webfairyparadise\_you@yahoo.co.jp

をお願いします

余詰・近況報告は

<http://circe-pro.cocolog-nifty.com/blog/>

で行っています。確認の上、解答下さい

【入選回数一覧】

ルール説明

【協力詰】

先後協力して最短手数で受方玉を詰ます

【協力自玉詰】

先後協力して最短手数で攻方玉を詰ます

【最悪詰】

攻方はなるべく相手玉が詰まないように王手し、受方はなるべく早く自玉が詰むように応じる。千日手は許容するものとする

【アンチキルケ】

1. 駒取りを行った場合、駒取りをした駒は最も近い初形位置に戻る
2. 5筋の金銀桂香は取った側が戻る位置を選択できるが、片方にのみ戻れる場合はそちらに強制的に戻る
3. 成駒は成ったまま戻る
4. 初形位置に戻れない駒は戻らない
5. 駒取り発生時、駒が戻るまでを一手とする
6. 詰みの概念はフェアリーに準ずる

【Messigny】

- 1 盤上に置かれている双方の同種の駒(玉を含む。成駒は別種の駒として区別する)は1手でその位置を交換することができる
2. 交換する時に駒を裏返すことは出来ない
3. 行き所のない駒や、二歩が発生するような交換は禁手

4. x と y の位置にある駒を交換する着手を y / x で表す

【前置き】

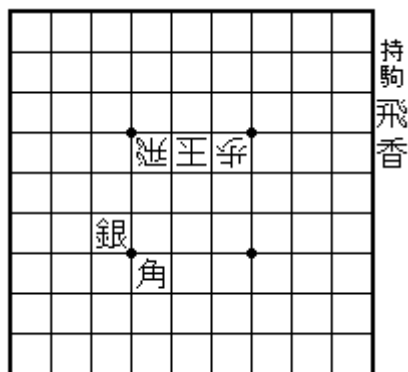
今回もバランス的にはいい感じかと思います。全く解いてないのですが……

結果稿で書こうかと思ったけどこっちで通常原稿は外付けの方に入れていてC,Dドライブには入れてなかったのがダメでした。今回からは両方にストックする事にします(まだ、新しい外付け買ってませんが……) 向うにだけあるのは復旧可能なデータで良かったです。そんな訳で本当に申し訳ありませんでした

【妖精】

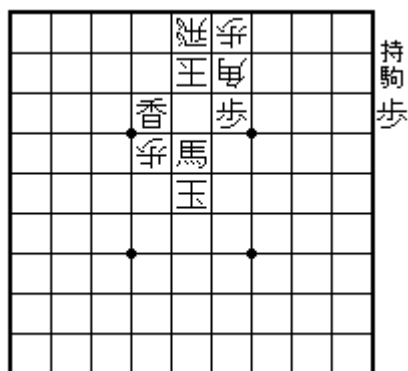
【第壱番】 雲海氏作

協力詰 5 手

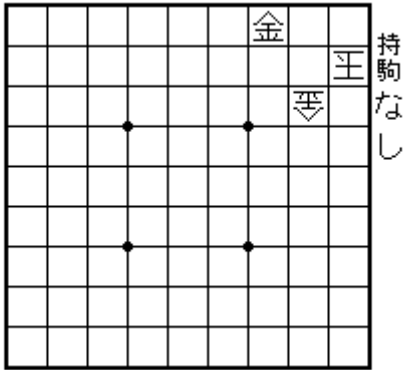


【第貳番】 たくぼん氏作

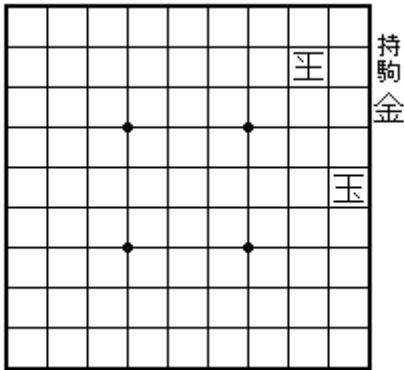
アンチキルケ協力自玉詰14手



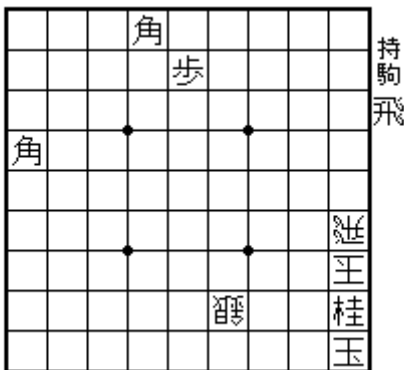
【第参番】 神無太郎氏作  
Messigny 協力詰11手



【第四番】 神無太郎氏作  
Messigny 協力詰17手



【第五番】 真T氏作  
最悪詰25手



# ばか詰



## 第8回 詰四会フェアリー作品展

### 課題：プロ野球に因んだ作品

今回の課題は、フェアリー作品には厳し目ふだったのか投稿数は2作と少なかった。しかし内容的は面白い作品が揃ったと思います。あれ四国の人がない？神無一族の氾濫みたいですね。第1番は、後手の持駒が無制限となっております。フェアリー駒はなしですが、通常の駒は何枚でも使用可。たとえば飛や角を3枚以上何枚使っても結構です。第2番の受方の持駒は通常の駒残り全部でこちらは無制限ではありません。先手の「牛」を受方が取った場合は、受方は「牛」をその枚数だけ合駒で打つことが出来ます。お間違いの無きようお願いいたします。

なお因む球団名ですが、第1番は「中日」で、詰上りより理由を考えてみてください。第2番は、使用するフェアリー駒から想像がつかうことでしょうか（笑）若い人は知らない可能性もあるかな？ なお牛の動きはルール説明をお読み下さい。

#### 【ルール】

**ばか（協力）詰**：先後協力して最短手数で、受方の玉を詰める

**ばか自殺スタイルメイト**：先後協力して最短手数で、攻方の王を王手は掛かっているが、合法手のない状態にする。

**PWC**：取られた駒は取った駒が元あった場所に復元する。ただし二歩や行き所のない駒は復元せず、取った方の持駒となる。

**取禁**：詰手順中、駒を取る手があってはならない。王手や詰みの概念は通常通り。（駒を取れないので王手ではない、とはしない。）

**牛**：大将棋の猛牛。縦横に2マス動ける。飛び越えては行けない。（2マスまで動ける飛車としてみてください。）第2番では牛は成らない。

【解答締切】 7月15日（木）

【解答宛先】 takuji@dokidoki.ne.jp

#### 【告知】

次回第9回詰四会は8月22日（日）松山市民会館で13時より開催します。課題は「桂が頑張っている作品」皆さん宜しくお願いします。

### 第1番 神無太郎作

PWCばか自殺スタイルメイト 14手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				王					一
									二
									三
									四
									五
					歩				六
									七
							王		八
					馬			角	九

持駒 香

後手：持駒無制限

### 第2番 神無七郎作

取禁協力詰 59手

フェアリー駒=20S:牛#2

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
			馬	馬	馬	馬	馬		二
			香				香		三
			馬	王	王	馬	馬		四
						馬			五
				牛	牛				六
			香	香	香	香	香		七
									八
									九

持駒 なし

注：受方の持駒は通常の駒残り全部。

# Onsite Fairy Mate 第 160 回出題

開催日 : 2010 年 6 月 13 日 (日)  
 解答締切 : 2010 年 7 月 3 日 (土)  
 解答発表 : 2010 年 7 月 4 日 (日)

神無七郎 作

キルケ受先協力千日手 18手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
						王		王	六
								歩	七
							飛		八
									九

持駒 なし

## 【ルール説明】

### 協力千日手 (=ばか千日手)

先後協力して最短手数で最初の局面に戻す。

### 受先

受方から指し始める。

### キルケ

駒が取られると最も近い将棋での指し始め位置に駒が戻される。戻せないときは持駒になる。

本作の解答を管理人宛

(janacek789@ybb.ne.jp) に E-mail でお送り下さい。

## 【コメント】

最近 iPad の登場により電子書籍の話題が増えました。そのせいもあってか、こんな記事を見かけました。

電子書籍も国会図書館に“納本”へ 11 年度  
 スタート目指す  
 (http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20100608-  
 00000007-zdn\_n-sci)

「ほうほう電子書籍も納本できると… じゃあ WFP も国会図書館に納本するよう、たくぼんさんに勧めなきゃ」などと思って読み進めると…

紙の納本制度では、小売価格の 5 割 + 送料程度の金額が「代償金」として交付されるが、電子書籍の場合は、送信のための手続き (メタタグ付与や DRM 解除など) にかかる手数料を代償金として交付することを検討する。

紙の本より安いとはいえ、やっぱりお金は掛かるらしいです。

(※ 6 月 15 日追記: 上記は誤り。「交付」ですから逆に貰える方でした。WFP の場合は元から無料なのでお金を貰うこともないようです…)

紙の本と比べたときの電子書籍の最大の長所は「場所を取らない」ことでしょう。本をたくさん買うと本棚が必要になり、本棚をたくさん置こうとすると大きな部屋が必要になり… といった具合に手元に置いておける本の数はどうしても制限されてしまいます。

これに比べると電子書籍は本当に場所を取りません。例えば、このサイトにも神話大全の

PDF 版が置いてありますが、この本のファイルサイズは 634KB。4GB のフラッシュメモリでさえ約 6 千冊分収蔵できる計算です。これなら「どの本を捨てようか」で頭を悩ます必要もありません。

私自身は iPad にしろ Kindle にしろ電子書籍閲覧用の端末は持っていない (読むものがないのに端末だけ買って仕方ない) のですが、将来電子書籍の普及・標準化が進み、コンテンツが充実してくれば、「持ち運べる本棚」として閲覧用端末を購入する時が来ると思います。

さて、今回の出題は「汨濫 32」の解答締切と時期が被るため、易しい作の出題です。いきなり王手が掛かった初形ですが誤図ではありません。協力千日手の開始局面は攻方の手番である必要はないはず… ということで受先形式の協力千日手です。最新版の f m にもこの機能が搭載されました (%UL で指定可) ので、皆さんもいろいろ試作してみてください。

(担当: 神無七郎)

## 推理将棋第34回出題

将棋についての会話をヒントに将棋の指し手を復元するパズル、推理将棋の第34回出題です。はじめての方は

どんな将棋だったの？ - 推理将棋入門

([http://toybox.tea-nifty.com/memo/2007/05/post\\_53f2.html](http://toybox.tea-nifty.com/memo/2007/05/post_53f2.html)) をごらんください。

解答、感想はメールで2010年6月20日までに TETSU まで (omochabako@nifty.com) メールの題名は「推理将棋第34回解答」をお願いします。

### 推理将棋第34回出題 担当 タラパパ

この人が推理将棋の世界に、彗星のように現れたのが、はるか昔のようです。作品出題に解答に大活躍のDD++さんの個展です。後手の全着手が明かされた初級は、”易しさ”を優先して作られた作品。こういう作品が、推理将棋には絶対に必要なのです。中級は『居玉を詰めるには？』と考えれば、これしか手段はないはず。上級はなんと、”しりとり”手順！ 前代未聞の珍条件に面喰わないで下さい。

#### 34-1 初級 DD++さん作

勇み足 9手

63から54へ上がった玉が、63へ戻れない詰上がりとは？

#### 34-2 中級 DD++さん作

中央決戦 10手

55を中心にした5×5マスの着手制限。玉も金も銀も動けないなら？

#### 34-3 上級 DD++さん作

しりとり 11手

無駄手をうまく活用した手順を考えてください。

---

#### 34-1 初級 DD++さん作

勇み足 9手

「昨日将棋であつという間に負けちゃったよ」  
「どんな将棋だったんだい」

「最初に64歩と突いたあと、玉を、62、63、54、と進めたんだ」

「それは危ないね。で、その後は何を指しただい」

「9手で詰まされちゃったから、それだけしか指してないよ」

「・・・」

「空成って怖いんだね」

(条件)

- ・ 9手で詰んだ
- ・ 後手の着手は「64歩、62玉、63玉、54玉」
- ・ 空成があった

※ 空成とは、駒を取らずに成る手のことです。

---

#### 34-2 中級 DD++さん作

中央決戦 10手

「さっき隣で指してた10手で詰んだ将棋、中央付近の着手ばかりだったね」

「着手があった筋は3～7筋の5つか」

「着手があった段も3～7段の5つだね」

「あの不成の手はちょっと意外だったな」

(条件)

- ・ 10手で詰んだ
- ・ 着手があった筋は3～7筋の5つ
- ・ 着手があった段は3～7段の5つ
- ・ 不成の手があった

さて、どんな将棋でしょう？ 推理してくださいね。

6月7日、補足追加 (タラパパ)

※ 着手範囲制限に加え、5つの筋、5つの段、全てに着手する必要がありますのでご注意ください

34-3 上級 DD++さん作  
しりとり 11手

「11手で詰んださっきの隣の将棋、なんだか変な将棋だったね。」

「どこが？」

「3回あった飛の手がどれも不可解すぎる」

「しかたないさ、あの2人はしりとり王としりとり名人なんだから」

「というと？」

「あの将棋は、最初から最後まで着手地点がしりとりになっていたんだよ」

「ほ、本当だ！」

(条件)

- ・ 11手で詰んだ
- ・ 飛の手が3回あった
- ・ 着手地点がしりとりになっていた

(互いに直前の相手の手の段と同じ数字の筋に着手し続けた) しりとりは例えば、76歩、64歩、44角、42銀、26歩、65歩、53角成、34歩、42馬……。という感じですね。もちろんこれは詰んでいませんが。

Tシャツメーカーより





【作品展における余詰テンプレ】

余詰があった旨をブログ上で報告します。その上で、作者に作意解答を発表するかどうかを尋ねる

1) 発表する場合

→作意解答と余詰解答を両方出します（作意解答解説付き）

その上で、一応私が担当の間は修正図を作品展では発表できないという形にします

2) 発表しない場合

→作意解答と余詰解答を両方伏せます

結果稿では余詰があった旨と修正図を作者が将来発表する予定である、という事を明記します。

この場合は再修正図を作品展上で発表可能です（他の所でも問題ないですけど）

雲海氏作が余詰でした。粗検陳謝です

さて、今回は1)の形にを作者が選択しましたので作意解答と余詰指摘順を掲載するのみにしておきます。修正図の発表を楽しみにしています。

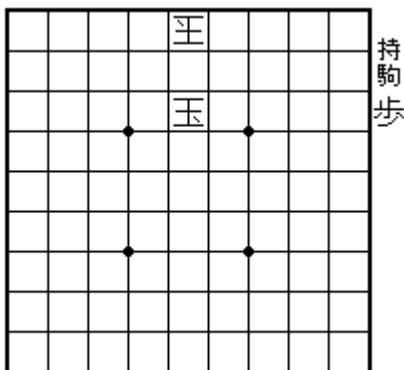
【解答者数：4名】

6 題正解：渡辺氏 たくぼん氏

5 題正解：雲海氏 神無七郎氏

長いので早速…

第 1 番 神無太郎氏作 Messigny 協力詰 9 手



【作意】

52歩 41 玉 51 歩成 53 玉 /41 玉 52 と 43 玉 53 と 41 玉 /43 玉 42 と 迄 9 手

【担当者コメント】

歩が一枚しかないので玉を支え駒にして頭と金の形にするしかないので追いやすいと思います。ルール紹介の易しい作品

【短評】

雲海氏：

あまりのシンプルさに愕然。他のルールも調べてみたのですが完全なのはこのルールだけでした

神無七郎氏：

まずは軽い練習問題。付かず離れず微妙に距離を保つのがコツでしょうか？双方の玉が睨み合ったまま横にスライドしたら、歩がと金になっていたという構成も面白いと思います

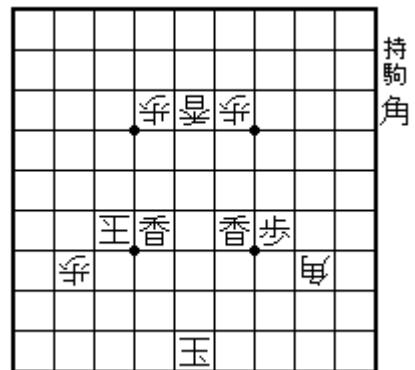
たくぼん氏：

きれいな作品です

渡辺氏：

これしかない詰み形。良い客寄せだと思います。ところで、Messigny はどう発音するのでしょうか？メサイニー？あと、棋譜表記の x/y は位置だけじゃなくて駒の名前も書くんですね

第 2 番 シン氏作 鏡協力自玉詰 10 手



【作意】

58角 54 玉 66 角 36 玉 58 角 54 玉 36 角 66玉 54 角 同香 迄 10 手

【作者コメント】

本当に久しぶりの投稿です。とりあえず無事に高校生活 2 年目を迎えられることにホッとしております。これからは徐々に投稿数をあげられたら、と考えております。さて、復活第一作目は、難しさ皆無の楽しい？ものです。角と玉の追いかっこを楽しんでいただけたら、と思います。この「角を動かしまくりたい！」というアイデアは、雲海さんの第14回のWFP作品展の第2番からきています。全く内容は別になって

しましたが…。角の1回転にしようともしましたが、軌道の処理が困難でしたので断念。配置には目を瞑っていただけるとありがたいです(笑)

【担当者コメント】

前の投稿が何時だったか思い出せない位です。お久しぶりです。そして、進級おめでとうございます。これからも宜しくお願いしますさて、挨拶はこの位にして解説…といきたいですけど必要がない位易しく楽しい作品です。角を消すためには36歩が邪魔でそれをルールを最大限生かして消すという仕組みです

【短評】

雲海氏：

手順が楽しすぎる。解いていてうれしくなる作品だと思います

神無七郎氏：

邪魔駒消去のためだけに行って帰ってくる手順がユーモラス。玉が実質角なので、解答手順中の玉を何度も角と書きそうになりました

たくぼん氏：

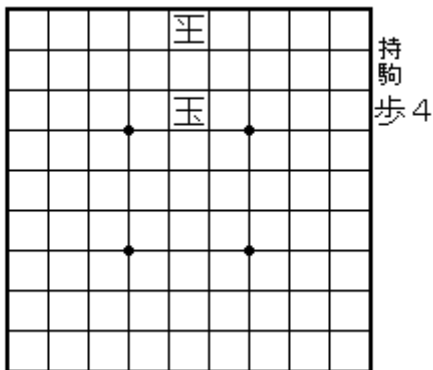
鏡協力自玉詰で10手は手ごわいと思ったがさにあらず楽しめました

渡辺氏：

10手での趣向手順。合駒にはまって4問中最後に解けました

第3番 神無太郎氏作

Messigny 打歩協力詰13手



【作意】

52歩 41玉 51歩成 53玉 /41玉 52と 63玉 53と 72玉 73歩 41玉 /72玉 42歩 51玉 52歩 迄 13手

【担当者コメント】

相手の玉が遠くにいれば自玉を遠くに飛ばせる本ルールならではの手順が出現します。打歩だと端っこに寄せたいのすが中央で詰ませるのが予想外かもしれません

【短評】

雲海氏：

第1番と同様にシンプルな図で素晴らしい。還元玉もいいですね

神無七郎氏：

隅で詰めないのがこの作の良いところ。第1番と同じタイミングで入れ替えることはないだろう…などとヨコシマな解き方をすると余計な苦勞をする作だと思います。…私？ しっかり余計な苦勞をしました

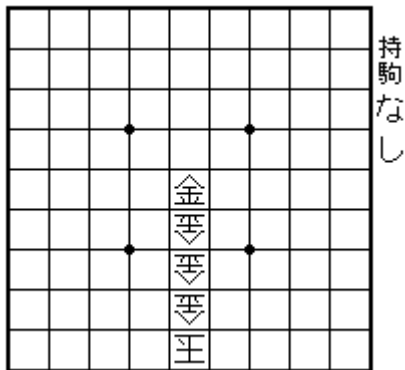
たくぼん氏：

1番と形は同じながら打歩にすると歩が4枚も必要とは・・・これ結構手ごわかった

渡辺氏：

「詰め方玉を抑える駒が生歩」「と金ではなく詰方玉で逃げ道を防ぐ」両方とも予想外で苦勞しました。解けてみれば「第1番で6手目反対に寄ってみればどうなるんだろう？」というのが作図動機なのかな？と想像してみたりします。双裸玉図の見事なペアでした

第4番 神無太郎氏作 Messigny 協力詰13手



【作意】

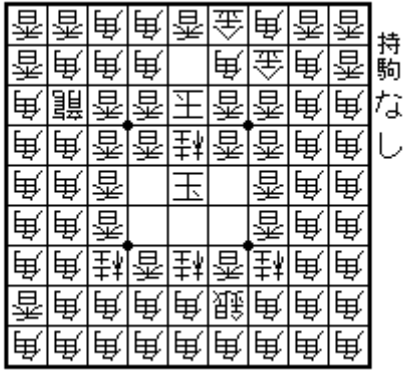
58金 /55金 同金 /57金 同金 同金 /55金 49金 68玉 58金 77玉 68金 76玉 75金 66玉 65金右 迄 13手

【担当者コメント】

55の金が金を入手した後、もう一度戻ってきます。最初が手を付けやすく、形もいいので易し



第6番 雲海氏作 成禁協力自玉詰 9112手  
命名「傘の曲」(C-) \*余詰



先手持駒 金4555銀  
後手持駒 なし

【作意+作者コメント】

龍の軌跡だけを作意順として書いておきます  
龍の軌跡

83~72~61~52~41~32~23~

「14~23~32~41~52~61~72~83~94~85~  
96~87~78~69~58~49~38~27~16~25  
~」 「」をもう1回

14~23~32~41~52~61~72~83~94~85~  
96~87~78~69~79~88~97~86~95~84~  
93~82~71~62~53

136手サイクルで駒の位置を徐々に変えていく趣向作です。命名の意は「いつもよりも多く回しております」で有名なアレです。使用駒数から分かりますように、fm未検討(むしろできない)です。早詰等があったらごめんなさい。さて本作ですが、最終目的が54桂を跳ねて開き王手で詰みなので、53へ龍(成禁ですが(笑))を移動させる必要があります。しかし、このままでは永遠に移動できません。というのも今作には、

①52~61~94~85~96~69~58~49~16~25~  
14~41~52

②53~71~93~84~95~86~97~79~68~59~  
48~39~17~26~15~24~13~31~53

の2つの角のコンベヤーがあるのですが、この2つは基本お互いに独立していますため、交わることはないからです。しかし、龍は①のコンベヤーにいるので、どうにかして②のコンベヤーに移動させる必要があります。その移動を可能にするのが銀です。金でも可能に思えますが、金で龍のコンベヤーを移動させると、その

後金に斜め後ろの利きが無いために、コンベヤーが止まってしまいます。さて、龍のコンベヤーを移動させるには龍と銀の位相を同じにする必要があります。最初はかなり離れています。①が1周するのに20枙19サイクル、②が1周するのに24枙23サイクル、それぞれ必要ですから、サイクルを重ねるごとに龍と銀は近づいていきます。(1サイクルで1枙移動が基本ですが、2枙移動させるサイクルが1周に1つだけあるため、このようなサイクル数になっています)そして位相が同じになった時に、龍を①から②のコンベヤーに移動させて、53へ移動させることができます。

続いて手順の説明です。

・ア 最初~682手目まで

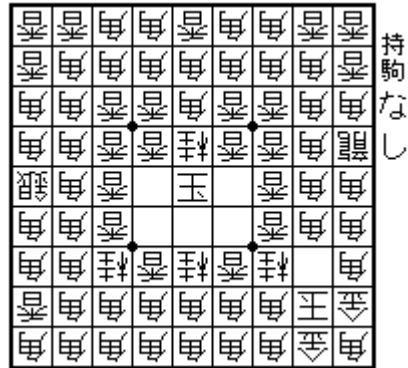
最初にどちらの方向に玉を回転させるかですが、41と32に金がいるために玉は反時計回りに動きます。金は斜め後ろへ行けないので逆方向は無理となっています

・イ 683手目~912手目まで

アと同様のサイクルですが、金が将来邪魔にならないように右下隅へ格納します。この際、最初の金を29へ格納すると、もう1枚の金が格納できなくなりますので注意です。

・ウ 913手目~7746手目まで

912手目の局面が下図です

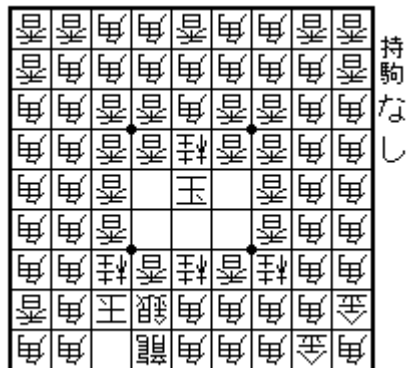


持駒：金4099銀

ここから龍と銀を近づけるために、ひたすらサイクルを重ねるのですが、玉を時計回りと反時計回り、どちらの方向へ移動させるのが今作の最大の問題です。結論からいえば、玉を時計回りの方向へ動かすのが正解で、反時計回りだと32手オーバーします。そして6700手後の7612手目で龍と銀の位相が同じになり、さらに1周弱移動させて7742手目から「79金、同龍、69金、同銀」とした7746手目で、龍と銀のコンベ

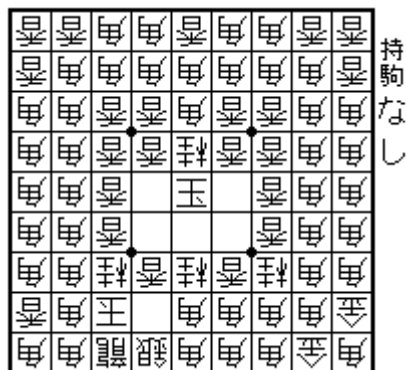
ヤーを変えることができました。

7742手目



持駒：金 684 銀

7746手目



持駒：金 682 銀

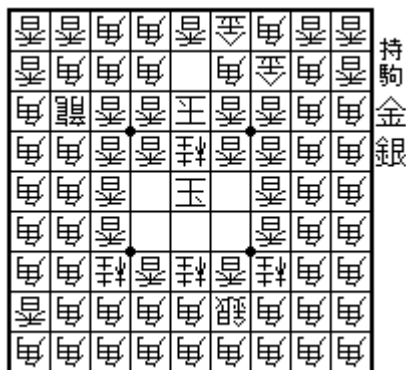
- ・エ 7747手目～9050手目まで  
龍のコンベヤーを①から②へ移動させることができたので、龍を53へ移動させます。  
なお、ここから玉を反時計回りの方向へ動かします
- ・オ 9051手目～詰上がりまで  
玉を67まで移動させ桂を跳ねて詰みとなります

【短評＋余詰指摘】

渡辺氏からの余詰指摘を全文載せておきます。この後更に短縮の指摘が氏より届いたのですがそれに関しては作者に転送しておきました。

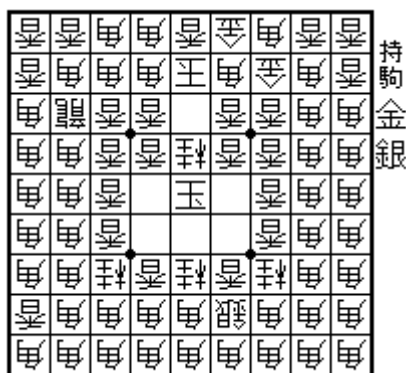
(編集部注：読み易いように図を作り直しています。間違いがありましたら編集部の責任です。なお持駒の金の数は4桁は表示できませんので全て金銀と表示させて頂いています)

余詰と思いますので手順と盤面を詳細に既述します。沢山略記していますがそれにしても9000手越えは長い。本作の解図は「複雑な金庫のダイヤルを合せるような感覚」でした



52金、同玉、

\* 2手目の図



以下、後手が先手が直前に打った金を角銀金龍を斜めに1マス移動して取る場合は棋譜を、「動く駒の名前」の代わりに「動く駒の元位置」で書く。例：「53金、同62」における「同62」は62にある角銀金龍のどれかで53金を取ること

- 53金、同62、62金、同玉、52金、同61、61金、同72、72金、同玉、62金、同71、71金、同82、82金、同玉、72金、同83、83金、同玉、82金、同93、93金、同84、84金、同玉、83金、同94、94金、同85、85金、同玉、84金、同95、95金、同86、86金、同玉、85金、同96、96金、同87、87金、同玉、86金、同97、97金、同88、88金、同玉、87金、同78、78金、同玉、88金、同79、79金、同68、68金、同玉、78金、同69、69金、

同58、58金、同玉、68金、同59、59金、同48、48金、同玉、58金、同49、49金、同38、38金、同玉、48金、同39、39金、同28、28金、同玉、38金、…(手順ア:85手)

同27、27金、同玉、28金、同17、…(手順イ:5手)

17金、同26、26金、同玉、27金、同16、16金、同25、25金、同玉、26金、同15、15金、同24、24金、同玉、25金、同14、14金、同23、23金、同玉、24金、同13、13金、同22、22金、同玉、23金、同32、32金、同玉、22金、同31、31金、同42、42金、同玉、32金、同41、41金、同52、52金、同玉、42金、同53、…(手順ウ:46手)

(手順アイウで一周  $85+5+46=136$  手、ここまで138手)

「手順アイウ」 x 4、…ここまで

$138+136 \times 4=682$  手

「手順ア」、同29、29金、同18、18金、同27、27金、同玉、28金、同17、…(手順イ':8手)

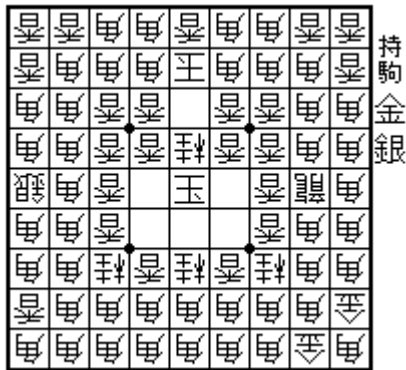
「手順ウ」、

(手順ア、同29、手順イ'ウで一周

$85+1+8+46=140$  手、ここまで822手)

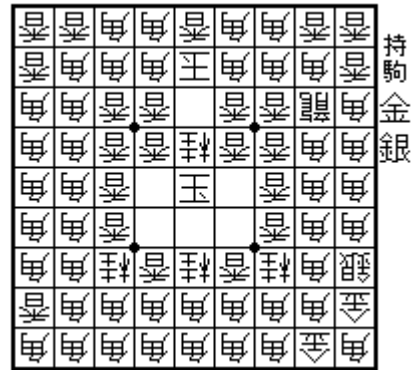
「手順ア、同29、手順イ'ウ」、…(140手、ここまで962手)

\* 962 手目の図



「手順アイウ」 x 36、…( $136 \times 36=4896$  手、ここまで5858手)

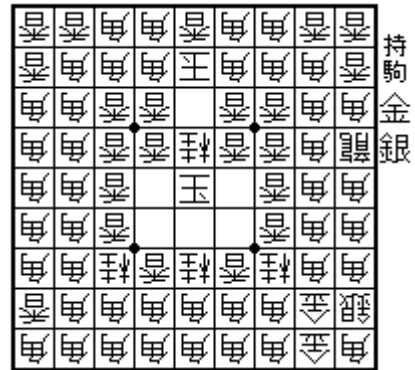
\* 5858 手目の図



「手順ア」、同27、27金、同玉、28金、同金寄、18金、同銀、「手順ウ」、

( $85+7+46=138$  手、ここまで5996手)

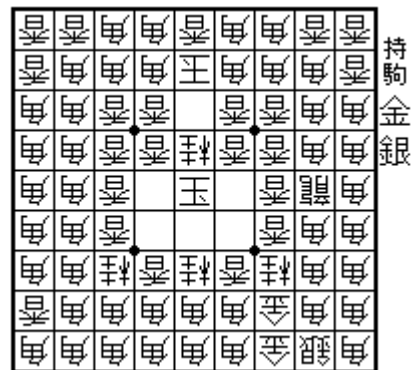
\* 5996 手目の図



「手順ア」、同金引、39金、同金寄、「手順イ'ウ」、

( $85+3+8+46=142$  手、ここまで6138手)

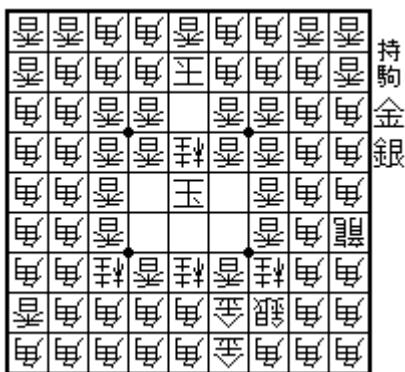
\* 6138 手目の図



53金、同62、62金、同玉、52金、同61、61金、同72、72金、同玉、62金、同71、71金、同82、82金、同玉、72金、同83、83金、同玉、82金、

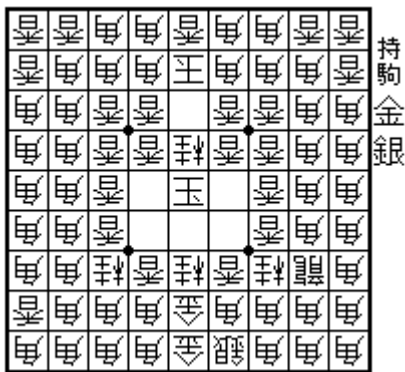
同93、93金、同84、84金、同玉、83金、同94、94金、同85、85金、同玉、84金、同95、95金、同86、86金、同玉、85金、同96、96金、同87、87金、同玉、86金、同97、97金、同88、88金、同玉、87金、同78、78金、同玉、88金、同79、79金、同68、68金、同玉、78金、同69、69金、同58、58金、同玉、68金、同59、59金、同48、48金、同玉、58金、…(手順ア' : 73手)、同58、49金、同金上、38金、同玉、48金、同金、49金、同金寄、39金、同28、28金、同玉、38金、同29、…15手、「手順イ'ウ」、(73+15+8+46=142手、ここまで6280手)

\* 6280手目



「手順ア'」、同金、59金、同金寄、49金、同38、38金、同玉、48金、同39、39金、同28、28金、同玉、38金、…14手、「手順イウ」、(73+14+5+46=138手、ここまで6418手)

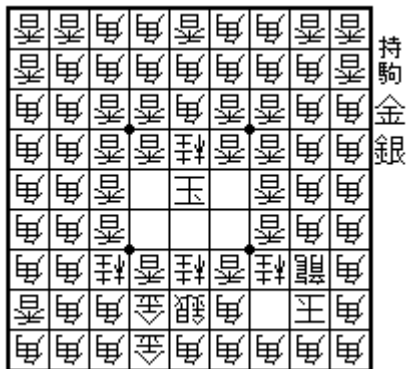
\* 6418手目の図



53金、同62、62金、同玉、52金、同61、61金、同72、72金、同玉、62金、同71、71金、同82、82金、同玉、72金、同83、83金、同玉、82金、同93、93金、同84、84金、同玉、83金、同94、

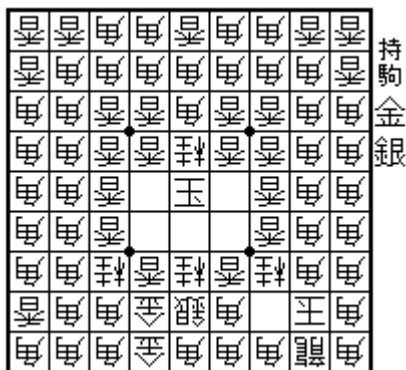
94金、同85、85金、同玉、84金、同95、95金、同86、86金、同玉、85金、同96、96金、同87、87金、同玉、86金、同97、97金、同88、88金、同玉、87金、同78、78金、同玉、88金、同79、79金、同68、68金、同玉、78金、同69、69金、同58、58金、同玉、68金、同金、69金、同金寄、59金、同48、48金、同玉、58金、同49、49金、同38、38金、同玉、48金、同39、39金、同28、28金、同玉、…(86手、ここまで6504手)

\* 6504手目の図



38金、同27、27金、同18、18金、同29、29金、同38、…(8手、ここまで6512手)

\* 6512手目の図

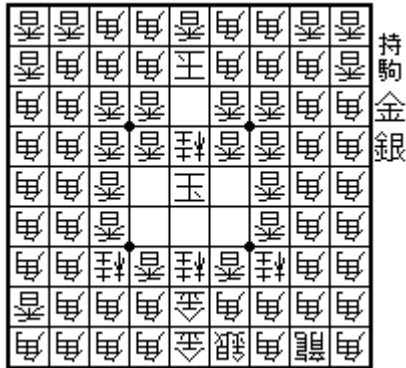


38金、同玉、28金、同39、39金、同48、48金、同玉、38金、同49、49金、同58、58金、同玉、48金、同59、59金、同金上、68金、同玉、58金、同金、59金、同金寄、…24手  
69金、同78、78金、同玉、68金、同79、79金、同88、88金、同玉、78金、同87、87金、同玉、88金、同97、97金、同86、86金、同87、87金、同96、96金、同85、85金、同玉、86金、同95、95金、同84、84金、同玉、85金、同94、94金、

同83、83金、同玉、84金、同93、93金、同82、82金、同玉、83金、同72、72金、同玉、82金、同71、71金、同62、62金、同玉、72金、同61、61金、同52、52金、同玉、62金、同53、…(手順エ：62手)

(24+62=86手、ここまで6598手)

\* 6598手目の図

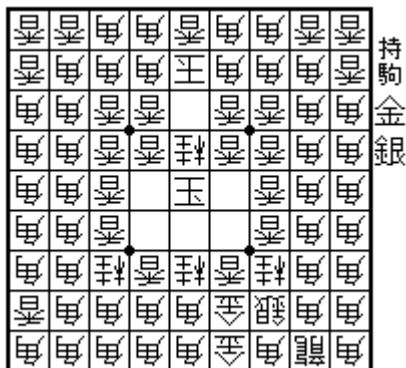


53金、同42、42金、同玉、52金、同41、41金、同32、32金、同玉、42金、同31、31金、同22、22金、同玉、32金、同23、23金、同玉、22金、同13、13金、同24、24金、同玉、23金、同14、14金、同25、25金、同玉、24金、同15、15金、同26、26金、同玉、25金、同16、16金、同27、27金、同玉、26金、同17、17金、同28、28金、同玉、27金、…(手順才：51手)、同38、38金、同玉、28金、同39、39金、同48、48金、同玉、38金、同49、49金、同金上、58金、同玉、48金、同金、49金、同金寄、59金、同68、68金、同玉、58金、同69、…25手

「手順エ」、

(51+25+62=138手、ここまで6736手)

\* 6736手目の図



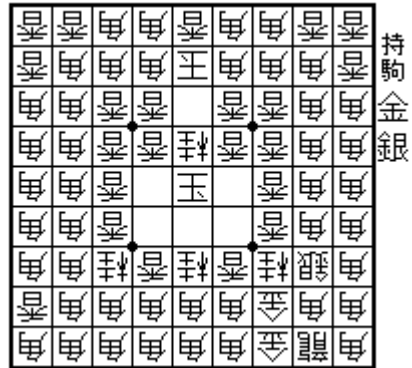
「手順才」、同38、38金、同玉、28金、同39、

39金、同金上、48金、同玉、38金、同金、39金、同金寄、49金、同58、58金、同48、48金、同59、59金、同68、68金、同玉、58金、同69、…25手

「手順エ」、

(51+25+62=138手、ここまで6874手)

\* 6874手目の図



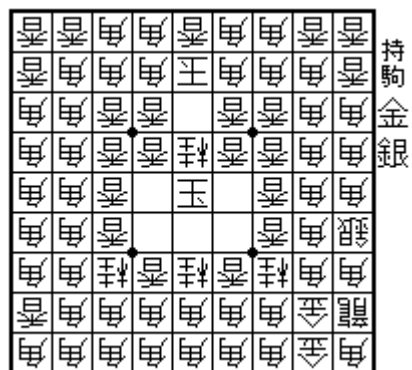
「手順才」、

同18、18金、同29、29金、同金上、38金、同玉、28金、同金、29金、同金寄、39金、同48、48金、同玉、38金、同49、49金、同58、58金、同玉、48金、同59、59金、同68、68金、同玉、58金、同69、…29手

「手順エ」、

(51+29+62=142手、ここまで7016手)

\* 7016手目の図

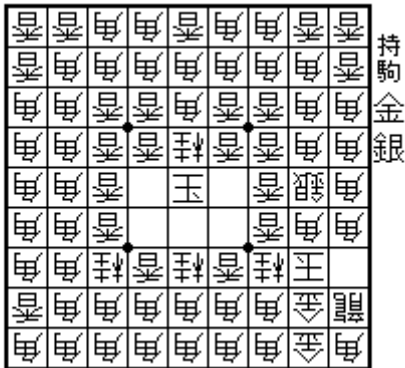


53金、同42、42金、同玉、52金、同41、41金、同32、32金、同玉、42金、同31、31金、同22、22金、同玉、32金、同23、23金、同玉、22金、同13、13金、同24、24金、同玉、23金、同14、14金、同25、25金、同玉、24金、同15、15金、同26、26金、同玉、25金、同16、16金、同27、



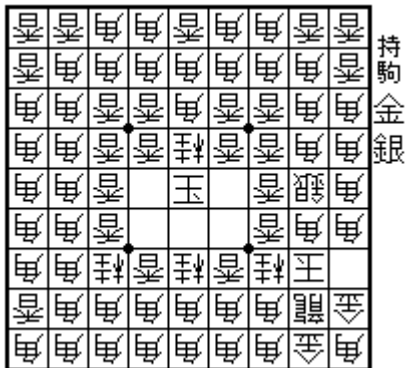
27金、同玉、26金、同17、…46手  
 (ここまで7062手)

\* 7062手目の図



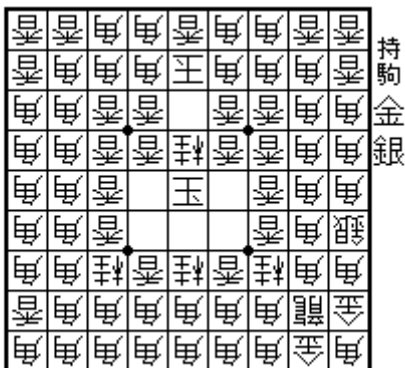
17金、同龍、18金、同金、28金、同龍、…6手  
 (ここまで7068手)

\* 7068手目の図



「手順ウ」、…(46手、ここまで7114手)

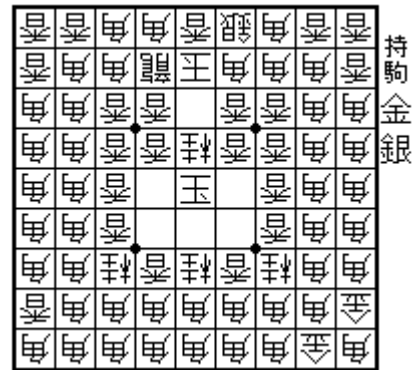
\* 7114手目の図



「手順アイウ」 x14、…(136x14=1904手、ここ

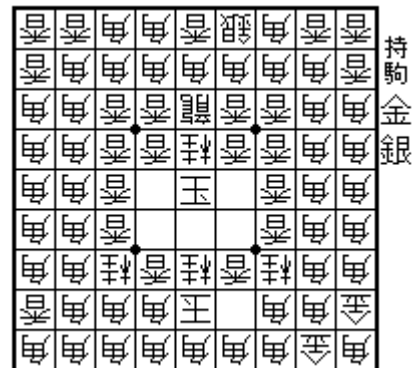
まで9018手)

\* 9018手目の図



53金、同62、62金、同玉、52金、同61、61金、  
 同72、72金、同玉、62金、同71、71金、同82、  
 82金、同玉、72金、同83、83金、同玉、82金、  
 同93、93金、同84、84金、同玉、83金、同94、  
 94金、同85、85金、同玉、84金、同95、95金、  
 同86、86金、同玉、85金、同96、96金、同87、  
 87金、同玉、86金、同97、97金、同88、88金、  
 同玉、87金、同78、78金、同玉、88金、同79、  
 79金、同68、68金、同玉、78金、同69、69金、  
 同58、58金、同玉、68金、同59、59金、同48、  
 …(70手、ここまで9088手)

\* 9088手目の図



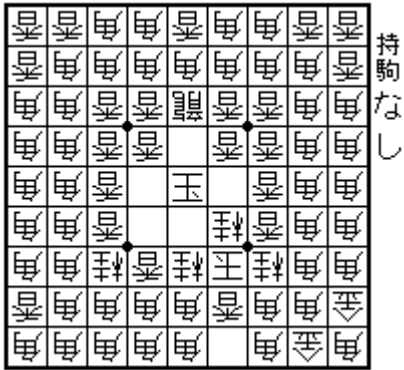
「48金、同59、59金、同48」 x4 (先手の駒を減らすだけの手)

48金、同香、47銀、同玉、58金、同49、46金、  
 同桂まで9112手

(「58金、同49」も先手の駒を減らすだけの無

駄な手)

【詰上り】



この手順では「先手持駒金4546銀、9094手」で詰む順に先手の持駒金を9枚減らす順を加えたものです。これが最短かどうか分かりません（最短ではない気がします）。この先手持駒金を減らすための無駄手の挿入位置は沢山あるので、余詰が沢山あることになります  
少なくとも最後を「66桂まで」で詰ませれば「先手持駒金4540銀、9082手」までに短縮可能ですね

## 第 22 回 WFP 作品 展 結 果 担 当 紅 月 花 煉

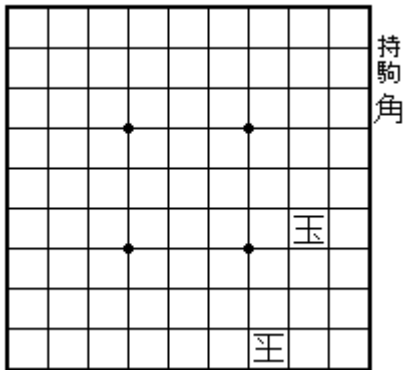
解答者数：4名

6題正解者：神無七郎氏 隅の老人B氏  
たくぼん氏

5題正解者：雲海氏

隅の老人B氏が少しお久しぶりの解答でした。有難うございました。今回は全く返信出来なくて申し訳ありません。次回からはきちんと業務をこなして行きたいと思います。今回の選題はバランス的にも良かったかなあとと思います。これも投稿者の皆さまのおかげです。今後も無理をせずに宜しくをお願いします。今回は無事締め切りに間に合いそうです…前回は本当に申し訳ありませんでした。しかし、少しでも楽をしようとする代理解説案は失敗でした。こういう姑息な考えはいけないという事ですnee

### 【第一番】 神無太郎氏作 Messigny 協力自玉詰 8手



#### 【作意】

48角 29玉 同王 /26玉 17玉 39角 28角  
同角 /39角 同角成 迄 8手

#### 【担当者コメント】

交換の為の限定合が簡潔な形から出現します。このルールだと交換利用で限定合が作り易いかなあとと思います

#### 【短評】

雲海氏：

実はこの飛版がストックにあります（手順は少し違いますが）

\*Messigny 協力自玉詰 8手

受方：26玉。攻方：48王。持駒：飛  
神無七郎氏：

まずは易しい問題で調子を上げて……と思ったのですが、合駒が出ない序が意外と盲点でした

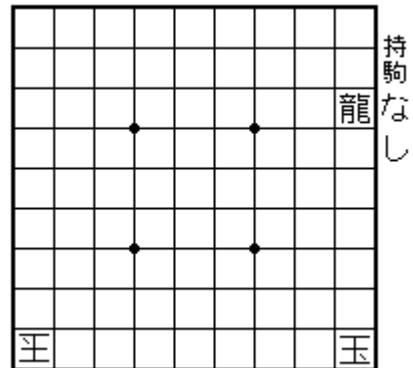
隅の老人B氏：

3手目がMessigny独特の王手。こんな手も有り、か

たくぼん氏：

たまたま同様の作品を創っていたので一目でした

### 【第二番】 神無太郎氏作 Messigny 協力自玉詰 10手



#### 【作意】

99王 /19玉 14角 同龍 17桂 55角 28飛  
19王 /99玉 88角 同角 /55角 同飛成  
迄 10手

#### 【作者コメント】

さて本作、初形は左右対称ではないが、作意と左右対称な局面推移となる別手順が存在する。93龍 94角 同龍 97桂 55角 88飛 99王 /19玉 28角 同角 /55角 同飛成迄10手 左右対称形での左右対称の着手は同一着手とみなすのが普通。これは、その後の局面遷移が左右を入れ換えただけとなり、詰手順に本質的な差がないとみなせるからであろう。前述の理屈を適用して余詰ではないと強弁できるかな？花沢先生の明快な否定論も聞いてみたいが

#### 【担当者コメント】

面白い発見の作品だと思います。初形が左右非対称であるにも関わらず、ルールの都合上手順が左右対称になるという珍しい作品

担当個人としては、1手進んだ局面で左右対称なので問題ないという考えです。否定論を出せる程の理論構築能力がないのが残念です……

【短評】

雲海氏：

解くのに大苦戦しました。まだルールに慣れていないのかなあ。2解というのは、初手が99王/19玉でも良いことでしょうか？それなら左右対称ということで私は問題ないと思う派です

神無七郎氏：

玉の近傍に駒がない詰上りが鮮やか。最後にさりげなく成限定が入っているのも良いところ。Messignyでは異なった手順で（左右反転して）同じ局面になる場合があるというのは面白い発見ですね。「手順」だけ見て余詰と扱うか、「局面」の列として見て本質的に唯一解として扱うか、どちらの方法もあると思います。（解答者が混乱しないよう出題時に配慮してもらえば良いでしょう）

ところでこの問題の番号が漢数字の「二」ではなく、カタカナの「ニ」になっているのは深い意味があるのでしょうか？

\*\*単なる変換ミスです。。

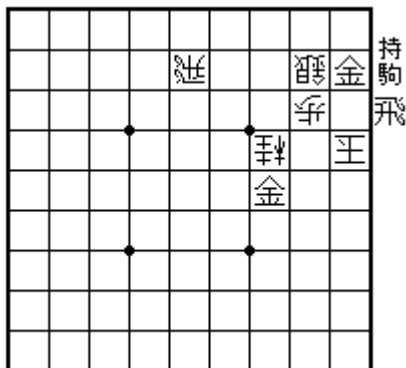
隅の老人B氏：

10手で合駒が4回、2、4手目の難しかったこと！暇に任せて、幾日考えたやら、我ながら呆れる

たくぼん氏：

初手99王/19玉は左右対称扱いでしょうか。こんなのは想定外ですね

【第三番】 シン氏作  
アンチキルケ協力詰6手



【作意】

21桂 13金 同桂 /21桂 11飛 13桂  
25金 迄 6手

【作者コメント】

久しぶり？の受先形式。狙いは「桂馬の同一地点への2度跳ね」。受先で初形から桂馬を消したのが工夫ですかね。このアイデアの実現案はフェアリーランド発表の自作（2009年11月）よりきています。大分手順が似てしまったかも知れませんが、狙いは全く別なのでセーフ？のかなり配置が汚いですね。角を使わせないように22を塞ぎ、飛を使わせないように品切れにしたりと、やりたい放題です。まあ、2枚とも余詰防ぎに必要だったので、仕方ないと割りきてます。綺麗かはともかく、ちょっとおもしろいかなあ。と思い投稿することに

【担当者コメント】

邪魔駒の12金を消すための居食い。居食いした後、51に利かすために再度跳ねるのが面白いと思います

【短評】

雲海氏：

12金が邪魔なのは一目瞭然ですが、消去の仕方に熟考。21桂が2回跳ねる良い手順ですね

神無七郎氏：

飛の横利きを通すため、飛の横利きを遮る初手が味な一着。結局受方の着手は居食いを含めて桂尽くしですね

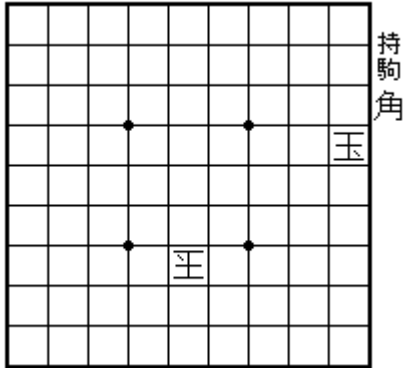
隅の老人B氏：

飛を打つ前に桂を発生させて、更に跳ばせる。構想の妙。この問題がが最初に解けて他を解く気になりました

たくぼん氏：

11飛は見えるがそれを遮る21桂が見えにくい。金消去後も21に残るが移動合があるとは見事

【第四番】 雲海氏作  
対面協力自玉スタイルメイト8手



【作意】

24角 23 飛 84 角 66 飛 同角 同玉 26 飛  
25角 迄 8手

【作者コメント】

初手や7手目のような中途半端な位置からの限定打はあこがれます

【担当者コメント】

中途半端な位置の限定打を打って飛対で角を飛ばしてからもう一度中途半端な位置に限定打を打って今度は角対。角打飛対、飛打角対の対照も綺麗だと思います

【短評】

神無七郎氏：

対面ルールには慣れていたのですが、目標が「詰」ではなく「スタイルメイト」だったので、感覚の調整に手間取りました。4手目が普通の合駒なのが却って見えづらかったです

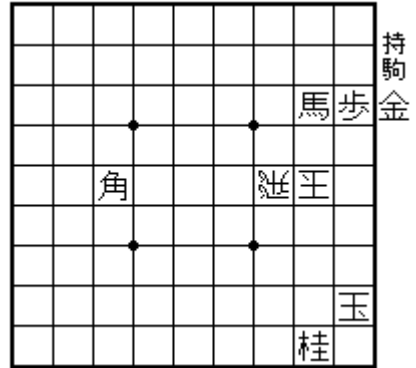
隅の老人B氏：

手の殺し合い。飛合、角合と難しいが、見つければ派手な手で嬉しいな

たくぼん氏：

双裸玉からきれいな手順でした。珍しく短い時間で解けました

【第五番】 真T氏作  
最悪詰30手



【作意】

15香 16金 同玉 34馬 25飛打  
同馬 同玉 17桂 16玉 36飛  
26角 同飛 同玉 48角 37飛生  
35角 同玉 57角 46歩 同角  
34玉 35歩 24玉 34歩 35桂  
同角 23玉 33歩成 14玉 26桂  
迄 30手

【変化】

2 手目17桂は16玉34馬同飛26金同玉  
53角成44桂同馬35桂同馬同飛38  
桂16玉28桂迄  
a.10 手目26飛は同玉48角37桂同角  
16玉28桂迄  
46飛は36桂同飛26桂同飛同玉38桂16玉  
28桂迄  
14 手目37角は同飛生53角成44桂同馬  
35桂38桂16玉34馬25合同馬迄  
48角打は37桂同角16玉28桂  
16 手目 同角は16玉34角25合36飛26合同飛迄  
53角は16玉26角成同玉37角16玉36飛26  
合同飛迄  
44角は35桂37角16玉36飛  
26合同飛迄

【紛れ】

5 手目25銀（金）は同馬同玉16銀（金）  
以下逃れ。  
11 手目26桂は同飛同玉38桂以下逃れ  
11 手目26金は同飛同玉25金で  
同飛は48角37桂同角16玉  
28桂以下逃れ  
16玉は15金同玉42角成以下逃れ  
15 手目37桂合は同角で  
16玉は25角同飛28桂以下逃れ

同飛生は38桂16玉27角以下逃れ  
19手目46桂は同角26玉38桂以下逃れ

【作者コメント】

狙いは10手目の限定打。意味は合駒を1枚だけ請求するためです。合駒を請求するための限定打は第1回最悪詰作品展第5番小林看空氏作にありますが、その作品は2間以上離して打てない形で合駒請求が0か1でしたので、0か1か2に拡張しました。16手目35角限定打が主題との対比で気に入っていますが、収束は流れてしまいました。偶数手ですが初手は王手なので難しくはないと思います

【担当者コメント】

偶数手で初手が広いように見えますが後手は王手を掛ける位しかないので15香は見えやすいと思います。15香16金として飛を合駒で入手して10手目が狙いの限定打です。先手は26を防がれている状態で桂を持っているという状況を逃れなければならないです。それを唯一実現出来るのが36の地点です(変化a参照)限定打に対して今度桂合すると桂を持ってない形で16玉と逃げる形を作られるので後手は角合に変えて48角を強要します。今度は、16玉とした所で25角迄の形を作るべく移動合！ それに対して合駒請求しない短打が10手目との対比になっていて良い感触だと思います  
移動合を含めて大駒合が3回も出てくるという珍しい最悪詰ですが10手目の限定打を中心に纏まった傑作だと思います

【短評】

神無七郎氏：

序盤から飛とか角とか強い駒がどんどん手に入る最悪詰としては異例の展開。36飛で筋に入ったと思ったのですが、その後も不詰感に苛まれました。37飛生が痺れるような妙手ですが、そこから玉が14に向かう収束も意外でした。正に千変万化。中味の大変濃い、中編詰将棋の醍醐味を味わせてくれる傑作です

隅の老人B氏：

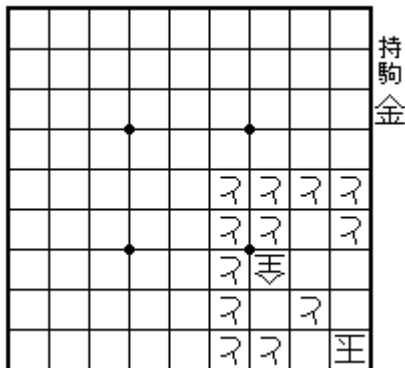
第一の難関は初手の発見。如何に詰め方の手を狭めるか、ですね。合駒もそれぞれ難しく、寝ては夢、起きては何とか、少しオーバ、苦労しました、難しかった

たくぼん氏：

最悪詰なのに大駒合が3回も出てくるとはビックリ。特に角合から飛の移動合は盤面を広

くするようで指しにくかった

【第六番】 たくぼん氏作  
禁欲協力詰31手



b) 持駒金 → 金歩

【作意】

a)

18金 29 玉 19 金 38 玉 29 金 27 玉 38 金  
18玉 28 金 19 玉 18 金 29 玉 19 金 38 玉  
29金 27 玉 28 金 26 玉 27 歩 同全 37 金  
17玉 27 金 18 玉 17 金 28 玉 19 銀 37 玉  
27金 38 玉 28 金 迄 31手

b)

18金 29 玉 19 金 38 玉 29 金 27 玉 18 金  
26玉 27 歩 同全 17 金 37 玉 27 金 38 玉  
37金 29 玉 38 銀 18 玉 29 銀 19 玉 28 銀  
18玉 27 銀 29 玉 38 銀 18 玉 19 歩 28 玉  
29銀 17 玉 18 歩 まで 31手

【作者コメント】

史上初?初形が同じで持駒が1枚プラスされるツイン作。禁欲だから為せる業ですね。手順が簡単なのは仕方ないですが手数が揃ったのでまあまあか

【担当者コメント】

禁欲で歩が一枚増えたが為にb)ではa)の手順が使えなくなってます(19歩と打つ余地があるので) a), b)で収束は全く違う物ですが金の回転方向がa), b)で逆になっている等、組曲として非常に綺麗な纏まりを見せています

【短評】

雲海氏：

持駒が増えても同じ手数で詰むというのが信

じられない

神無七郎氏：

持駒が増えても同手数という禁欲ならではの不思議な組局。趣向作として纏めるより、この方が味のある表現ですね。ツインだからと言って頭6手をカットしなかったのも、手順の流れを不自然にしないための賢明な判断だと思います

隅の老人B氏

- a) 閃きよりは根気、最初は37成銀を金と見間違えた。でも、似たような手順で詰みました。解答を書いている時に間違いに気付く、やれやれ。
- b) なまじ、Aが簡単に詰んだので、Bも楽勝?と思いました。ところがどっこい、これがなかなか難しい。最後は突き歩、巧いものだとつくづく感心。

【総評】

雲海氏：

Messigny 協力自玉詰の双裸玉は検討が大変なんですよねえ。試しに持駒を飛と角、手数を8手、/M10 = 200MBでfmを走らせたことがあるのですが、全検完了まで1時間強かかりました(笑)

他のルールだと10分未満で終わるので、この差は驚異です。心が挫けます

隅の老人B氏：

水無月、中旬、梅雨。連日の雨、外出できず、暇。 そうだ、こんな時には、フェアリーでも(失礼)考えよう。ルールブックを片手に老眼鏡、1題解けたら、またルールブック。苦労はしたが楽しい?一時。雨もまたよし、出題者に感謝

## お便りよりその後

先月の雲海さんのお便りよりで示された森茂作のばか自殺スタイルメイト80手の修正案ですが残念ながら余詰が見つかりました。OFMの掲示板より内容を転載します。

修正案

ばか自殺スタイルメイト 80手

9	8	7	6	5	4	3	2	1		
			と		と	銀	王	銀	一	
		歩	歩				香		二	
歩			王			香	香	角	三	
			香	と			と	飛	と	四
			と	歩		歩	桂	歩	歩	五
銀	と	と	と		角	桂		桂	六	
					歩		歩	飛	七	
					金	金	金	金	八	
				銀				桂	九	

持駒なし

### 2010/6/10 神無七郎

WFP23号に掲載された雲海氏による森茂氏作ばか自殺スタイルメイト80手の修正案ですが、収束で余詰がありました。

まず、提示されている図では89銀を69銀としているため、51手目57金右のところ 76 と 同玉 87銀 65 玉 76 銀 同玉 67 金 同玉 68 銀 同玉 以下作意に戻る非限定が生じています。これだけなら銀を原図の通り89に戻せば良いのですが、89銀配置でも61手目から以下の筋が成立しています。

64飛 57 玉 48 金 同玉 38 金 同玉 68 飛  
29玉 28 飛 同玉 16 王 37 玉 28 飛成 36 玉  
38龍 37 銀 27 龍 35 玉 26 龍 同銀生 まで

この筋があるので、金の横並びの形は崩せません。では、どうすれば修正できるか……は難しいですね。収束40手くらいまでなら /ETMP オプションを使って f m で検討できるのですが、そこから先は人力+部分的機械検討で頑張るしかないようです。

### 2010/6/15 雲海

返事が遅れてすみません。

余詰のご指摘感謝です。収束に余詰がないかを調べるのをすっかり忘れていました。申し訳ないです。

しばらく修正できないかを考えていたのですが、96銀と69銀を元の98銀と89銀に戻して、86のと金を88へ移動させれば、とりあえず収束の余詰は消せるようです。

50手目までは作意とほぼ同じで（25手目が61歩成か61とかの違いのみ）、以下77と、65玉、76と、同玉の局面で作意に帰結します。

さて問題は自陣のと金で、これを許容できるかは私にはわかりません。森茂氏の作風もわかっておりませんし・・・

どなたか他に良案はないでしょうか？

森茂作 ばか自殺スタイルメイト80手  
(雲海氏修正案)

		と		と		銀	王	銀	持駒なし
	歩	歩				香			
歩		王			香	香	角		
		香	と			と	飛	と	
		と	歩		歩	桂	歩	歩	
		と	と		角	桂		桂	
				歩		歩		飛	
銀	と			金	金	金	金		
	銀						桂		

2010/6/16 神無七郎

f m と fmrev を使って/ETMPオプション付きで一晩検討させてみたところ、収束58手目から以下の余詰が見つかりました。

33飛成 51玉 61と 同玉 71歩成 同玉 31龍 61銀 63王 82玉 54と 64角 73香成 93玉 83杏 同玉 84と 同玉 85と 同玉 76と 同玉 87銀 65玉 76銀 同玉 87と 同玉 78銀 同玉 68金 同玉 56歩 46角 58金 同玉 48金 同玉 38金 同玉 18飛 29玉 28飛 同玉 22龍 37玉 28龍 36玉 27龍 35玉 26龍 45玉 35龍 56玉 65龍 同玉 64と 同角 まで 58手

角銀によって縛るこの余詰筋はかなり強力で、

たぶん原図でも成立するでしょう。修正図を得るのは更に困難になった感じです。

森茂作 ばか自殺スタイルメイト80手  
(雲海氏修正案22手目の盤面)

協力自玉スタイルメイト 58手

9	8	7	6	5	4	3	2	1		
			と		と					一
		歩	歩			王				二
歩		王						飛		三
		香	と					飛		四
			と	歩		歩	桂			五
			と	と		角	桂			六
					歩	歩				七
銀	と				金	金	金	金		八
	銀							桂		九

持駒 なし

★ 元作意を活かす修正はかなり難しそうですね。

文責 たくぼん



# Onsite Fairy Mate 第159回出題解答

開催日 : 2010年 5月 16日(日)  
 解答発表 : 2010年 6月 6日(日)

神無七郎 作

Messigny協力詰 73手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
と	と	と	と	と	と	と	と	と	六
歩	歩	歩	桂	歩	歩	歩	歩	歩	七
							毎	角	八
銀		香	香	香		香		王	九

持駒 歩

【ルール説明】

協力詰 (=ばか詰)

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

Messigny

盤上に置かれている双方の同種の駒(玉を含む)。成駒は別種の駒として区別する)は1手でその位置を交換することができる。交換する時に駒を裏返すことは出来ない。

【手順】

28角/18角 29玉 18角/28角 39玉  
 28角/18角 29玉 18角/28角 38玉  
 29角 49玉 38角 39玉 28角/38角 48玉  
 39角 59玉 48角 49玉 38角/48角 39玉  
 48角/38角 28玉 39角 19玉 28角 29玉  
 38角/28角 39玉 28角/38角 49玉

38角/28角 58玉 49角 69玉 58角 79玉  
 88銀 68玉 79銀 59玉 68銀 48玉  
 59銀 39玉 28角/58角 49玉 58銀 48玉  
 39角 38玉 49銀 29玉 38銀 18玉  
 29銀 19玉 28銀 18玉 19銀 29玉  
 18銀 38玉 29銀 49玉 38銀 58玉  
 49銀 69玉 58角 68玉 69歩 59玉  
 48角 まで 73手

神無七郎 作

Messigny協力詰 73手 (詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
と	と	と	と	と	と	と	と	と	六
歩	歩	歩	桂	歩	歩	歩	歩	歩	七
									八
				角	角				九
			歩	王	銀				

持駒 なし

【解説】

単純な6手の送り趣向が本作の出発点。初手から紛れがほとんどないので、これは見え易いと思います。ただ、この流れに乗って20手目を58玉とし普通に左辺に向かうと後で苦労します。99に銀がいるので、6筋より左に行くときにはもう1枚の角の応援は不要。攻方の角1枚で玉を追うことができます。従って、後々都合の良い位置に受方の角を置くために一旦右辺に戻るのが正解となります。

収束は角銀追いの手順が主体になりますが、これは協力詰の基本手筋。ばか詰中長編 検討結果報告 (10)で取り上げた飯田岳一氏の作品などがその代表例でしょう。

ばか詰 71手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
									五
龍			龍				銀		六
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	と	傘	七
銀	王	蟹		金	金		銀	角	八
香	桂		桂	香	香	桂	銀	歩	九

持駒 金2

(飯田岳一 / 1979年2月 / 詰将棋パラダイス / 修正図)

本作は送り趣向の部分があまりにも単純だったので、20手目からの角の運搬の方が主になるよう作図方針を変えたものです。おかげで難度は上がり「問題」としては手応えが出てきましたが、「作品」としては中途半端な構成になってしまいました。もっと Messigny の特徴が出た趣向に発展させる、あるいは角の運搬作業を主体にもっと構想を発展させる、などの努力が必要だったように思います。

【正解者及びコメント】 (正解6名：到着順)

渡辺さん

今回は詰め上がりから逆算が出来るので解きやすかったです。99銀を活用するには4枚の香車はすべて消える。となると詰め上がりは4通りしかなく、数手逆算すると「59玉、48角」型以外ないことが分かる。ここから7手は一本道に逆算可能で、がんばると20手逆算できる。この局面を素直に作ろうとすると、詰むのに107手かかる。99の銀を利用すると69香と79香が一気に取れることに気付けば、59香を取ったあと、48角/38角から49角、58角と追って行けば、最後に58角/28角を経由して85手に減らすことが出来る。この最後の入れ換えを作るために後手角を28に残す細工は実は69香と79香を取る前にした方が効率的であることに気付けば作意に到達する。

ところで合議制の話ですが、大数の法則というのがありまして、確率  $p$  で正解を出す小賢者が無数に居たとすると、確率1で「その賢者達のうちの割合  $p$  の人数が正解を出す」ということが言えます。

ですから、 $p > 0.5$  のときは小賢者の人数を増やしていくと多数決が正解を出す確率は1に収束します。

また、大賢者1人と小賢者2人の場合ですと、小賢者は大賢者の平方根の割合以上で正解を出せば大賢者の手助けが出来ます。

例えば大賢者の正答率が0.6の場合は正解：不正解 = 3 : 2 ですから、小賢者は  $\sqrt{3} : \sqrt{2}$  すなわち、正答率で  $\sqrt{3} / (\sqrt{3} + \sqrt{2}) = 3 - \sqrt{6} \approx 0.550511$  以上あれば良いことになります。

大賢者の正答率が0.9の場合は9:1 ですから小賢者は3:1 すなわち正答率0.75以上が必要になります。

☆ 渡辺さんは解答と一緒に、コメントに出てきた「合議」に関するコメントも送っていただきました。平方根の比で考えるというのは、二次不等式を立てるよりスッキリしていて、模範的な解答ですね。

この賢者と小賢者の話は非常に単純化されたモデルなので、そのまま日常生活に適用できるわけではありませんが、こうやって単純なモデルで考えたことは複雑な事象に対処するときも有用な指針を与えてくれます。専門的な解析はできないとしても、このような考察は折に触れてやっていきたいですね。

若林さん

収束から考えました。一度受方角を28に避難させないといけないのと、49銀-69玉のために1筋での折り返しが必要なのがキーですね。気持ちよく詰ますことができました。

☆ 本作、初形から収束が見えてしまうのは正直言って「作り損ねた」感があるのですが、おかげで解答は前回より(一通ですが)増えました。

1筋での折り返しは「盤の2段を使う角銀追いは3筋分あれば折り返しが可能」という協力詰作図上の「定理」(?)に沿ったもの。本来なら、せつかく Messigny ルールを使っているのですから、Messigny 特有の性質を利用して

「定理」に当てはまらない作品の実現を目指すべきなのではないでしょうか……

## 瘋癲老人さん

詰め上がりは一通りしかないのが難しくはないが、手数合わせるのが苦労しました。無駄手の 69 角を指していた為なかなか 2 手縮まらず。

☆ 瘋癲老人さんの仰っているのは 38 手目から、78 玉 69 角 … と進む紛れのことですね。この筋は後で 58 角に形を戻さないといけないので、手数を損してしまいます。誰でもそうだと思いますが、こういう「癖」というか「なぜか自然にこう指してしまう」筋で紛れに入ってしまうとなかなか抜けられませんか。しかも、慣れないルールだと盲点に入ったのかそのルールに対する知識不足なのか判別できず、疑心暗鬼になることが多いです。

## たくぼんさん

良心的な設計のおかげで歩を打つ場所が分かるので詰りも予想がつく。とはいえ序に 28 角型にするために一旦右へ戻る順は試行錯誤の上に辿り着いた順。早く左の銀の元へ行きたいという心理の逆を突かれました。

☆ そう 67 桂は「良心的な設計」なのです。決して余詰に負けたわけではないのです！（空しい）一応は 9 筋以外には歩を置かない（代わりに 9 段目の香を歩にする）ような案も考えたには考えたのですが、なかなか思ったような手順になってくれませんでした。詰将棋って難しいですね。

## 雲海さん

最初は 20 手目を 58 玉として、49 角、69 玉、58 角、79 玉、88 銀以下 79 手で詰ましてしまいました。（79 手に到達するまでも苦労がありました）どこで間違えたのだろうとさらに右往左往し、20 手目を 39 玉として右辺へ追っていく手順をやっと見つけて解決できました。心理的には早く左辺へ行きたいので、一旦右辺へ追うのは盲点でした。

本作で意外な所は趣向らしき手順があまりないことでした。もっとメッシニーらしい趣向手順が出てくるかと思ったのですが。角 2 枚だけじゃそんなに発展性が無いのでしょうか？もしかしたら非標準駒数の方がこのルールとは相性がいいかもしれませんね。ちなみに前作の PWC107 手詰の倉庫番趣向の作は、玉が 48 へ行けることになぜか気がつかなくて撃沈しました。情けない……

☆ 雲海さんもこの作品には物足りなさを感じているようですね。これは角 2 枚とか標準駒数だからというより、単に私が Messigny をあまり知らないせいだと思います。自分自身の作図経験が増えたり、他の作家の方々による Messigny の作例が増えれば自然にレベルは上がってくるのではないかと思います。

## 隅の老人 B さん

持駒の歩の打てるのは 6 筋だけ。9 筋の銀を働かせるのには？  
ともかく、王を 9 筋方面に追いましょう。方針決定、あとは根気と暇つぶし。なんとなく、収束図はこれかな？で、また追い回したら、詰みました。ひさしぶり、OFM が解けて、嬉しいな。この勢いでパラ誌の Messigny に挑戦しよう。

☆ 隅の老人 B さん、お久しぶりです。確か第 151 回以来の解答ですね。ぜひ「氾濫 32」への解答もよろしくお願いします。

☆ 今回は初形から詰りがある程度想定できる問題だったおかげか、解答が 1 通増えました。ちょうど「氾濫」ともリンクする出題だったので、この解答増は嬉しいですね。次回は「氾濫」の解答の邪魔にならないよう、易しめの問題を出題する予定です。ぜひ「氾濫」ともども解答をよろしくお願いします。また「1 手詰？コンクール」も解答も今月 15 日が締め切りですので、こちらも宜しく願います。

(2010.6.6 七郎)

～1手詰?コンクール～結果

担当：神無七郎

WF P23号で出題しました「1手詰?コンクール」。4人の方から解答をいただきました。

課題の内容は「無駄合を考慮に入れると1手詰だが、すべて有効合とすると手数になるべく長くなる作品を作れ」というもので、対象は以下の2部門でした。

【課題A】 間接両王手・間接開き王手の無駄合

【課題B】 原形復帰型無駄合

では、さっそく結果発表に移りましょう。まずは【課題A】から。

【課題A】

(多重)間接王手に対する合駒を無駄合に含めると1手で詰み、無駄合概念のないルールで解くとなるべく手数が長くなる図を作れ

補足：

- ・1手詰の手順は(多重)間接王手による詰であり、余詰が一切ないこと
- ・無駄合概念のない方の手順は攻方最短・受方最長の手順の長さのみを考慮し、非限定や長手数の余詰がいくらあっても良いものとする

作品募集時は間接空き王手・間接両王手の二重間接王手を含む除脳人間氏の作を例として上げ、「三重以上の間接王手が可能か?」という問いを投げかけたのですが、いきなり予想を超える多重間接王手の作が投稿されてきました。

第1番 渡辺秀行氏作

1手/61手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
							将		四
				歩	飛	歩	飛		五
							歩	角	六
								王	七
						玉		王	八
							王		九

持駒 なし

1) 37飛まで1手

2) 37飛

「27香 同角 16歩 同角」x4

「27桂 同角 16歩 同角」x3

「27金 同角 16歩 同角」x4

「27銀 同角 16歩 同角」x2

27銀 同角 16歩 同角 27角 同角

16桂 同飛 まで 61手

【作者のコメント(投稿時)】

29重間接両王手のつもりです。最後は同飛になるので2手分は普通のすかしです。

ただ、自分ならこの図をもって間接両王手だから無駄合いの1手詰だと言われたら拒否すると思います。

★募集開始早々、渡辺さんから送られてきたのが本作。想定をはるかに超える多重度の間接空き王手に驚かされました。

この機構は合駒2回単位で見ると【課題B】に属する原形復帰型の無駄合に見えますが、合駒1回だけなら確かに間接空き王手です。他の種類の無駄合が混じっていても良いというのが課題設定でしたので、【課題A】としての出題となりました。

★作意手順は無駄合を省く方の手順を1)、すべて有効合としたときの手順を2)に記述しています。

1)には間違える要素がありませんが、問題は2)。27地点の合駒の順序が「香桂銀金」ならば普通ですが、作意は「香桂金銀」となっています。これはいったいなぜでしょうか？この方に解説していただきましょう。

NAO：

上下逆ですが同じ機構でした。

歩を1筋に限定させる技は流石です。

・角銀を残して、金を先に捨てないと強行突破されますね。強行突破できるのは、持駒が「金銀銀ほか」「角金銀ほか」「角銀銀ほか」。

・この手順では50手目、二枚の銀を捨てた(27銀合)ところで27同飛以下の強行突破できるが手数オーバーとなる。

・最後に角金を残すと、角または金1枚め捨てたところ(たぶん46手目)からの27飛の強行突破されるので注意。

★第3番で分かる通りNAO氏も独立に同様な機構に到達しており、さすがに的確な説明です。 「斜め後ろに利く駒2枚」と「適度に強力な駒」があると強行突破が可能になるので、銀と角の入手をなるべく遅らせて手数を稼ごうという仕組みです。

#### 渡辺：

n 重空き王手を狙う発想です。合駒逆順のときの変化が面倒臭くて御免なさい。

★こちらは解答時の作者のコメント。当初は普通に「香桂銀金」の順に合駒をしていくのが作意でしたが、合駒はなるべくたくさん入れたい、でも盤上に置く駒が少ないと余詰消しが厳しい、というわけで簡潔な配置で合駒がいっぱい出せる「香桂金銀」の順番に落ち着いたというわけです。

#### たくぼん：（63手解）

収束が読みきれない。1手の裏に63手も隠れているとは本当にびっくり

★たくぼんさんの解答は金合を先にするとところまでは作意通り。しかし、銀2枚を得たところで強行突破する63手の解答でした。攻方最短・受方最長のみを正解とする今回の解答規定では残念ながら誤答（減点？）とせざるを得ません。

#### 雲海：

まず考えたのは何も考えずに27と16へ合駒を重ねて、それを角で取っていく場合でした。初形の後手の持駒は角金4銀4桂3香4歩13で合計が29枚。奇数枚目の合駒は27へ、偶数枚目の合駒は16へ合駒することになるので、29枚目は27への合駒。最後に16への合駒として24の桂の移動合がありますので、合計30回の合駒をすることになり、その場合は61手で詰むのが分かります。

次にそれより早く詰む解があるかどうかを調べた所、攻方に斜め後ろに利く駒、即ち角もしくは銀を計2枚以上渡している状態で金を攻方に渡すと、27合に同飛以下最短手順で13手で詰む手順がありました（なお角銀銀香を渡している状態でも可）。

さて初手の37飛に対して、受方は「27〇合、

同角、16△合、同角」（ただし〇≠歩）を最大回数（Xとします）繰り返して、上記の詰み手順のタイミングをなるべく遅らせます。ここで〇≠歩のため、Xは〇に合することになる金桂香と角or銀を1枚だけ渡す回数、つまり $X = (\text{金} + \text{桂} + \text{香})$ の枚数+1=12となります。この時、 $X \leq \text{歩の枚数} = 13$ となっているため、16へ歩以外の駒を合駒せずすむことの確認が必要です。これにより、37飛、「27〇合、同角、16△合、同角」×12、27□（□=角or銀）の50手に、27同飛以下の13手を足して、63手で詰ますことが出来ました。しかし50手目の27□に対して、27同飛ではなく27同角で取る場合を考えると、1番最初に考えた61手で詰む手順に帰結します。攻方最短が原則であるため、攻方は結局61手で詰ます手順を選択することになります。以上を踏まえて、受方は「金桂香歩」→「角銀」の順で合駒をしていく61手の手順という結論になります。

（ただし16は歩を優先。また角銀は1枚だけならいつでも渡しても良い。）

感想としては、角や銀よりも金を先に渡す機構というのが面白いです。普通だったら逆のように思えますし。

★雲海さんをご覧のように解答に至った経緯を詳しく書いてくださいました。「攻方最短」を最大限に適用すれば61手で詰むことを確認し、確実に正解に至るためには、これほどまでに慎重に手数比較をすることが必要なわけでした。

★しかし、たくぼんさんさえ誤答するところを見ると「攻方最短・受方最長」というルールは普通の詰将棋とは似て非なるルールだと言わざるを得ません。普通の詰将棋は「攻方は任意・受方は攻方最短の仮定の下で最長（早詰だけでなく作意より長手数の余詰も禁止する）」とか「手余り禁止」など作意を特定し易い配慮がされているので、何だかんだ言っても解答者に優しいルールになっていると思います。まあ、「攻方最短・受方最長」「手数表示なし」の出題形式はとてもスリリングなので、毎回はきついにしても、たまには刺激があつて良いかも知れません。

## 第2番 たくぼん氏作

1手/31手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

								歩	一
								皇	二
							歩	皇	三
								王	四
飛							歩		五
									六
							桂	桂	七
									八
			角					香	九

持駒 なし

- 94飛まで
- 94飛 84歩 同飛 74歩 同飛 64歩  
同飛 54歩 同飛 44歩 同飛 34歩  
同飛 24歩 同香 58歩 同角 47歩  
同角 36歩 同角 25歩 同桂 18歩  
同香 17歩 同香 16歩 同香 15歩  
同香 まで 31手

### 【作者のコメント】

ありきたりの誰でも考えそうなやつですが…同様の作で手が長いのがあればボツにしてください。三重以上にしても意外と手数伸びませんね～

- ★【課題A】の本来の意図に忠実に従った正攻法作品。原形復帰型無駄合の要素を一切含まずに三重間接空き王手を実現しました。こうなると次は「原形復帰型無駄合を含まずに四重以上の間接空き王手が可能か？」というのが興味別的になってきますね。どなたか挑戦しませんか？

### NAO :

正攻法ですね。1段下げれば4手伸びそうですが限界でしょうか。

- ★単純にこの構図のまま下げると2筋の合駒に「同歩成」とする手があるので、それを避ける工夫が必要ですね。構図を下げるよりは、下方向からの角による王手を付け加えられればあるいは……とも思いますが、これも余詰防ぎが大変そうです。

### 渡辺 :

シンプルで良いですね。この問題を見て思いましたが、無駄手概念がない場合「24歩から始めると早く詰む」とかだと面白いかもしれません。

- ★無駄合概念がある場合とない場合で指す手が異なる……確かにありそうですね。手数の長い余詰を無視するルール設定からは、通常の詰将棋では考えられない表現がありうると思います。もし上手い課題設定を思いついたら、WFP向けの企画としてたくぼんさんに提案してみてもいいかもしれません？

### 雲海 :

純粋に課題Aを突き詰めた作ですね。しかも合駒が歩に限定されているのがいいですね。最初は7歩連合になっていますし。ただ香に対しての合駒は角でも良さそうですが。

- ★作者は角合が混じることを嫌って、構図を工夫していますが、さすがに最終盤の角合を防ぐのは無理みたいですね。とりあえず担当者としては「想定」通りの方向の課題作があって一安心です。「想定外」の作品を見るのは楽しいですが、「想定外」ばかりだと担当の立つ瀬がないので…

## 第3番 NAO氏作

1手/63手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
							銀	歩	五
						玉	歩	角	六
						飛	角	王	七
							並		八
							香		九

持駒 香

- 19香まで1手
- 19香  
「18歩 同角 27歩 同角上」×9  
「18歩 同角 27桂打 同角上」×2

「18金 同角 27金 同角上」×2  
18銀 同角<sup>a)</sup> 27銀 同角上  
18銀 同角 27桂成 同角上  
18飛成 同角 まで 63手

〔紛れ〕

- a) 18同香は、同飛成、同角、27銀（逆王手）、同飛、同桂成で逃れ。

**渡辺：**

27銀と打つ逆王手を残すために銀の消費を抑えないと18同香から9手で詰まされます。最善応酬の中に最後まで空き王手になっている手順があるのが美しい。n重空き王手を狙う発想は拙作と同じですが完敗ですね。

- ★この作品展はもともと手数表示なしで出題する予定だった（課題の性質から言ってそうするのが自然）ので、投稿募集の際には何手の作が投稿されたかは伏せていたのですが、奇しくも渡辺さんとNAOさんが独立に同じ機構に到達しました。しかし、早詰防止の15桂までが合駒に参加する仕組みを実現したことにより、本作はわずか2手ながらも第1番を上回りました。

**たくぼん：**

これも合駒が読みきれません。普通詰将棋より読む量が多いかも

- ★たくぼんさんと雲海さんは最後の合駒を18飛成の代わりに18桂成とした解答でした。これは変同ですので、もちろん正解です。

**雲海：**

本作の初形における後手の持駒は金4銀3桂2香2歩18です。19香に対して、「18〇合、同角、27△合、同角上」（ただし〇≠桂）の手順を繰り返していきますが、18〇合に対して同香とした場合、27△合に同飛とした場合をそれぞれ考えてみます。まずは簡単な27△合に同飛とした場合です。以下同桂成、同角上、18飛打、同香、同飛成となり絶対詰まない局面、所謂ゼットとなり失敗となります。さて問題は18〇合に同香とする場合です。ここで攻方に銀3枚を全て渡していると仮定して進めてみると、18同香以下、同飛成（同桂成は26銀まで）、同角、27

〇合（〇≠銀）、28銀、18玉、19飛で詰みません。27〇合の所で18玉も、17飛という好手がありやはり詰みません。しかし、受方に銀が1枚以上残っている場合を考えてみます。すると、27〇合の所で27銀合（逆王手）が可能です。以下、27同飛、同桂成とゼットになりました。つまり、受方は銀を1枚以上残しながら「18〇合、同角、27△合、同角上」の手順を繰り返すのが方針となります。

さて、今度は移動合が途中にある場合について考えないといけません。第1番では移動合は取って即詰みだったため、考える必要はありませんでしたが、今作は18と27共に飛と桂の利きがあるので、取って即詰みとはならないからです。ここでも簡単な所から考えていきます。

まずは27飛成からですが、以下27同角上、金か銀を入手するために必要ならば「18〇合、同角、27△合、同角上」を繰り返していき、28へ打って早詰となります。

次に27桂成ですが、こちらも以下27同角、金か銀を入手するために必要ならば「18〇合、同角、27△合、同角上」を繰り返していき、27△合に対して同飛、同飛成、同角上、18〇合、28金（銀）で早詰となります。

続いて18飛成ですが、これは27飛成の時と一緒です。金か銀を入手したときそれを28へ打って早詰です。

最後に18桂成ですが、この時、攻方が銀を持っていると26銀で詰むので、受け方は金桂香歩を全て攻め方に渡してから銀を渡すこととなりますが、渡した途端に26銀で詰むので早詰です。

よって、移動合は最後の方に出てくることとなります。最後の“方”と述べた理由は、後手の合駒が残り銀1枚となった時、次に27の地点と18の地点のどちらに合駒するかによって事情が違ってくるからです。

次が18の地点の場合は、以下18銀、同角、27桂成（27飛成は同角上、18桂成、同香まで同手数）、同角上、18桂成、26銀まで、と移動合は最後ですが、次が27の地点の場合だと、以下27桂成（27銀は同角上で18桂成なら26銀、18飛成なら28銀で早い）、同角上、18銀、同角、27飛成、同飛まで、と銀合より前に移動合が出てくるからです。

27桂成だと早詰だと先に述べましたが、あくまで途中の時にだけ適用されるだけで、最後

の方だと先に移動合がでてくる場合もあります。18への移動合に対しては、攻方が銀を持っていれば最短で1手で詰むのですが、27桂成の移動合に対しては最短で5手かかるのが原因です。

さて今作は受方の持駒は合計で29枚と奇数枚であるため、受方の持駒が残り銀1枚になった時に次に合駒するのは18の地点となり、移動合は最後になります。

以上から受方は「金桂香歩」→「銀」→「移動合」の順で合駒をしていくこととなります。

感想としては、今作も機構が巧く、課題Aの手数最長作となっており、見事だと思います。これを見ると、まだ手数は延ばせるのではないかと思ってしまうかもしれません。それとも、この作が限界なののでしょうか？

★雲海さんは超長評で、詳しく変化・紛れを書いてくださいました。読者の皆様も参考にしてください。本作の銀合が後になる構成は第1番と似ていますが、意味付けは紛れa)に記載した逆王手を残すためです。銀と移動合以外の合駒の順番はかなり自由ですので、その点に注意すれば正答を得られます。

★何せほとんどの駒を合駒として使うのですから、このくらいの手数になると、2手伸ばす（合駒を1つ加える）のも苦しくなります。実際、NAOさんも本作には出題した図に到達するまで、いくつもの図を作られています。例えばこれは単玉対子図式の例です。

1手/57手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
						歩	銀		五
						飛	歩	銀	六
						飛	角	王	七
						角	皇		八
									九

持駒 香

★更にこの図で35桂→15桂、37飛→57飛とすれば、無駄合概念がない時の手数が59手に伸びます。36飛があるせいで37飛→47飛では手数が伸びないのが不思議なところ。（作者はこの35桂→15桂、37飛→47飛が59手だったらベストの美形と言っています。）

★ところが話はこれで終わりではありません。NAOさんは出題後も改良図を模索されていたようで、解答と一緒に次の図が送られてきました！

NAO :

紆余曲折を経てここまでできました。機構は渡辺さんの作とほぼ同じであり、本図に至る過程でも、渡辺さん作と同様、飛車2枚の間接王手の図も候補にありましたが、創作時はどうしても61手にとどまっていた。

ところが、・・・

飛車2枚の形だと盤上の駒を1枚減らすことが可能なようです。

すなわち、さらに2手延びました。

1手/65手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						龍			一
							歩		二
						歩	王		三
							皇		四
						飛	角	王	五
							歩	？	六
									七
									八
									九

持駒 なし

- 1) 11龍 まで 1手
- 2) 11龍 12歩 同龍  
「14歩 同角 25 香打 同角」×3  
「14歩 同角 25 桂打 同角」×2  
「14歩 同角 25 金 同角」×4  
「14歩 同角 25 銀 同角」×4  
「14歩 同角 25 角 同角」×2  
14桂 同龍 まで 65手



★序に12歩合を1つ挟むことで65手という驚異的な記録を達成しました。移動合も含め登場する合駒は何と32枚！

果たしてこの記録は破られることがあるのでしょうか？ 果てしなく「究極」に近い図であることは間違いなさそうです。

**【課題A総評】**

雲海：

課題Aは第1番と第3番が課題Bの要素とも融合しており、とても考えさせられました。ここまで手数が増えるとは正直驚きました。

★担当した私も正直ここまでの記録が出るとは予想していませんでした。詰棋人が知恵を絞ると、凄いことができるものなのですね。

★さて、お次は【課題B】です。

**【課題B】**

原形復帰型無駄合に対する合駒を無駄合に含めると1手で詰み、無駄合概念のないルールで解くとなるべく手数が長くなる図を作れ

補足：

- ・1手詰の手順は原形復帰型無駄合による詰であり、余詰が一切ないこと
- ・無駄合概念のない方の手順は攻方最短・受方最長の手順の長さのみを考慮し、非限定や長手数の余詰がいくらあっても良いものとする

第1番 志賀友哉氏作

1手／3手

										一
										二
							飛			三
										四
									角	五
					歩	銀		歩	皇	六
						王				七
					桂		飛			八
				と		弓		角	玉	九

持駒 なし

1) 18飛 まで 1手

2) 18飛 38歩 37飛成 まで 3手

[変化]

1)で18飛に38歩は37飛生 48玉 38飛引 47玉 33飛生で原型復帰

**【作者のコメント】**

元々は局面還元のための不成を作っていたのですが、気づいたら本手順から外れていました。3手解の方も最終手以下の余詰めですが駒が余らないので、1手詰でも3手詰でもあると主張してみます。

★大半の解答者の頭に「？」マークを浮かび上がらせた本作。「長手数以外の狙いでも良い」という課題設定をフル活用し、長手数とは真逆の「最短手数」を狙った作品です。

★この作品の1)、すなわち無駄合概念がある方の解答における18飛に対する38合駒が原形復帰型無駄合である理由も、今回の課題設定を巧みに利用しています。つまり、38合駒に対する37飛成の早詰があっても、37飛生から原形に復帰する手順が存在する以上、原形復帰型無駄合に変わりがない、という解釈です。今回は原形に復帰する手順の途中で早詰があったらそれを優先するという解釈(柿木将棋はその解釈を採用している)は採っていません。従って、無駄合概念がある場合とない場合で手順が分かれるというわけです。

★本作にはもう一つ重要なポイントがあります。今回の課題設定では、無駄合概念がない場合の手順は「手余り可」とする必要がある…誰でもそう考えると思います。担当の私もそう思っていました。でも本作を見てください。普通詰将棋のように「手余り不可」でも、無駄合概念がない場合の手順が成立しているのです！

★まずは見事に作者の狙いを見破った方の感想から見ていただきましょう。

渡辺：

18飛、38歩に対し、37飛生、38玉、38飛引、47玉、33飛生、とできるので本課題のルールでは「原形復帰型無駄合い」な訳ですね。ただし「普通」の解釈だと3手詰めの完全作!! 発想に脱帽です。

★次は真つ当な発想で解図に取り組んだ方々の感想。作意手順は読んでいても、まさかこれが「作意」とは思えなかったのでしょうか。そのため短評でも「？」が大活躍することになりました。NAOさんは作意通りの解答なので問題ないですが、たくぼんさんは解答が別手順で、短評中で37飛成を指摘しているので、本当に誤答扱いして良いか迷います。

NAO :

「18飛 38歩 37飛生 48玉 38飛引 47玉 33飛生」で原型復帰することは分かりました。

ただ、「攻め方最短」ルールでは一発で詰んでしまいます。

図かルールが違っているのでしょうか？33飛は34飛か？34でも早そうですね。

★作者のコメントにもあるように、作者も当初は素直に34飛（または35飛）で作っていたのではないかと思います。以前「果報は寝て待つ」という課題コンクールを開催した時も、志賀さんは独特の作品を出展されていましたし、目の付け所が違う感じがします。

たくぼん :

1手詰の影に隠れている不成趣向が変わった趣きです。しかし37飛成の一発があるのは問題無し？とは言え気になるなあ。34飛型でいいのでは？

★たくぼんさんの解は次の通りでした。

1) 18飛 迄 1手詰

2) 18飛

「38歩 37飛生 48玉 38飛生

47玉 33飛生」×15

「38香 37飛生 48玉 38飛生

47玉 33飛生」×3

38桂成 37飛生 48玉 38飛生 47玉

39桂 同と 48香 まで 117手

★攻方最短則が適用されるので上の2)の手順は表に出てきません。魅力的な不成趣向は完全に舞台裏に隠れています。裏方を表に出すような課題設定をしたつもりが、更にその裏に影の主役が隠れる作品……担当としては「一本取られた」と脱帽するしかありません。

雲海 :

作者の狙いがわからないので降参です。解答を楽しみにしています。

★雲海さんは手順をまったく書いていないのですが、間違いなくたくぼんさんと同じような手順は読んでいるでしょうね。果たして今回の種明かしで「なるほど」と思うのか「いんちきだ」と思うのか……できれば前者であって欲しいですが。

【総評】

たくぼん :

難しかった。長手数以外の狙いも良く分からずやや食傷気味。例題が素晴らしすぎた？

★たくぼんさんが「難しかった」というくらいですから、やはり難しかったのでしょう。

「攻方最短・受方最長のみが正解」「手数表示なし」は力試しなどの特殊なイベント以外では避けた方が良いみたいですね。

雲海 :

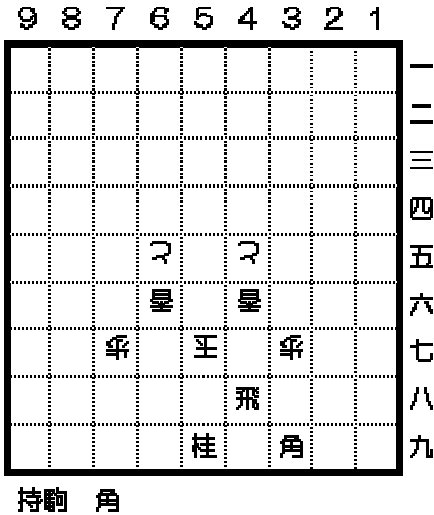
原形復帰型無駄合といえば、田島秀男氏の「古時計」が有名らしいですね（どんな作かは知りませんが）。最近知ったのは、詰工房のページに載っている金子清志氏の作で、これも扱いが難しいですね。私的にはこの類の合駒は無駄合としても良いと感じていますが、他の方はどう思われているのでしょうか？

〔参考1〕 田島秀男作「古時計」185手  
(詰将棋パラダイス1989年6月)

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
と		銀								一
				王		銀				二
										三
馬	金							駒		四
			ス							五
	金	歩		銀						六
	馬	角	馬							七
		歩	歩							八
										九

持駒 飛桂歩6

〔参考2〕金子清志作 7手  
 (詰将棋パラダイス1987年10月)



持駒 角

★これらはどちらも実際に出題され、解答募集が行われています。田島氏の作品はとても難解なのですが、これから解く人のために一応作意は伏せておきます。また、金子氏作には原形復帰型無駄合に+αの問題提起がありました。東京詰将棋工房のサイトでそれが述べられているので、引用します。全文は東京詰将棋工房の該当ページ (<http://www.tsumekobo.org/hakaba/haka04.html>) をご覧ください。

初手は7 9角打より他にない。5 6玉では5 8飛までなので6 8に合駒をするが、普通に歩を打つと、同飛として「左右反転して持駒が増えた」形になってしまう。詰将棋では「形が変わらなかつたり、手数が増えないのに、攻方の持駒を増やすだけの合駒」を無駄合と称して、解答手順の中に含めないことにしている。さて、この図の6 8合駒はどうだろうか。まあ仮に6 8合駒が「有意義」だったとしても、同飛とした後の4 8合駒はどうなるのだろうか。

★当時の解答者の反応も十人十色。結局結論らしい結論は得られていません。

★これは私見ですが、本当の問題点は、浸透度の低いルールや、人によって見解が分かれるルールを無理やり「普通のルールとして」適用することにあるのではないかと思います。今回の企画に参加した渡辺さんが自身の作品

に「自分ならこの図をもって間接両王手だから無駄合いの1手詰だと言われたら拒否すると思います」と書いているように、だまし討ち的に特殊ルールを使われると拒否反応を起してしまいます。でも、あらかじめそういうルールだと分かっていたら、それを楽しむことができます。

フェアリーなどでは異なるルールを同時に扱うのは当たり前のことですし、普通の詰将棋でも江戸時代の古典作品を鑑賞するときは現在とは違うルールで作られていることを前提に鑑賞を行います。だったら、今の普通詰将棋もそうしてしまってもはどうでしょう？

現存するルールのうち、大多数の人が抵抗なく受け入れられるものを「標準セット」、浸透度が低かったり人によって見解が異なったりするものを「オプション」して分離し、「標準セット」の範囲内で収まる作品は説明を省略して出題、「オプション」を適用する作品はそれを明示して出題するようにするのです。

時代によって好まれるルール、廃れるルールがありました。昔は需要が高くて、創作技術の向上で需要が低くなってしまったルールもあります。また、これからも様々な新ルールが提案されていくでしょう。それらを全部普通の詰将棋として扱おうとすると、必ず無理が生じてしまいます。

そろそろ普通詰将棋も「単一のルール」ではなく、「性質の近い複数のルールの集まり」になっている現状に合わせる時期に来ているのではないのでしょうか。

【解答成績】 (敬称略)

- 全題正解：渡辺、NAO
- 3題正解：雲海
- 2題正解：たくぼん

★本文中にも書きましたが、たくぼんさんの【課題B】第1番への解答の扱いはやや迷うところです。37飛成は読んでいるので、3題正解に近い2題正解です。

【現在の長手数記録】

- 課題A：65手 (NAO)
- 課題B：557手 (神無七郎：例題)

以上

## Fairy of the Forest#23 結果発表

■ 2010年02月18日：課題発表：握り詰  
=玉角金銀桂4歩5（協力詰）

■ 2010年05月15日：投稿締切

■ 2010年05月18日：出題

■ 2010年06月15日：解答締切

■ 2010年06月18日：結果発表

### ■ 出題

危惧したとおり、当初予定していた締切日（4/15）の時点では投稿はわずかに2作。急遽、締切を1月延ばしたものの、作品が増えるかどうかについては半信半疑でした。

しかし、その心配は杞憂に終わりました。久しぶりの神無三郎氏の登場（しかも複数作）もあって、何とか5作集まりました。

三郎氏を初め、難課題に挑戦いただいた作者諸氏に、敬意と謝意を表します。

さて、今回は課題が課題だけに、完成度の面では多くを望めないかも知れません。しかし、握り詰の条件を満たすために諸氏がどんなテクニックを駆使されているかも見ていただきたいと思います。

締切は、当初の予定どおり6月15日（火）とします。投稿締切が延びた分、解答期間が短くなりますが、ご了承ください。

（解答先）

→酒井博久（sakai8kyuu@hotmail.com）

### ■ 結果発表

#### 【今回の解答者】

（敬称略、到着順、○は全題正解者）

○神無七郎、○隅の老人B、○雲海、○たくぼん

たくぼんーこれ位の難易度だと解答者数が増えそうだけど…どうでしょうか？

☆だと思ったのですが……。毎度変わらぬ顔ぶれでした。手の打ちようがないのかなあ。

### ■ 23-01 雲海 協力詰 13手

											9	8	7	6	5	4	3	2	1	
																				一
																				二
																				三
																				四
																		科	科	五
																		ス		六
																		糸		七
																		糸	糸	八
																		王	銀	九

#### 持駒 角桂2

18 銀 同玉 19 歩 17 玉 29 桂 同と  
39 角 28 飛 同角 同と 29 桂 同と  
18 飛 まで 13手

雲海ー持駒変換と 29 桂のリフレインが主題ですが、駒数を合わせたがために形はひどいし、

序盤は絶連だし（握り詰でなかったら頭4手はカットする手順ですね）と、微妙な出来になってしまいました。

握り詰の制約がなかったらせめて下図のようにしていたでしょうね…。

#### 協力詰 9手

											9	8	7	6	5	4	3	2	1	
																				一
																				二
																				三
																				四
																				五
																		ス	糸	六
																		ス		七
																		糸	王	八
																		糸	ス	九
																			歩	九

#### 持駒 角桂2

神無七郎ー今回の握り詰は桂が多いのでこれをどう使うかが注目点ですが、本作と次作はと金の翻弄を主題に使ってますね。

序でもう1回と金を動かしたいところですが、それができないのが握り詰の辛さ？

隅の老人B—この作意で、配置の総ての駒が要るのかな？ まあ、良いや、調べるのは面倒だ。

☆むりやり駒を使わないといけないのがつらいですね。

たくぼん— 29 桂のリフレインが見所ですね。

☆この味自体はいいんですがね。うーむ。

■ 23-02 たくぼん 協力詰 15 手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 金桂歩

16 金 27 玉 39 桂 同と寄 26 金 17 玉  
29 桂 同と左 16 金 18 玉 19 歩 27 玉  
17 金 28 玉 18 金 まで 15 手

たくぼん— 1ヶ月もらってもちっとも出来ませんでした。申しわけなし。協力詰には珍しく桂の捨駒2回。

☆いえいえ、助かりました。

神無七郎—こちらは横にと金を動かす素材ですか。

19 とを 18 に置いて 26 を生桂にすることもできますが、横移動の味にこだわったのかもしれない。

☆確かに斜めの動きを入れたくない気もします。

隅の老人B—一瞥、歩金、桂金、どちらのコンビで詰むのかな？

仕方がないが、成桂配置は少し残念。

☆やはり七郎氏案のほうが良かったですか。

雲海—ミニ趣向がかわいい。

☆ですね。よく出来ていると思います。

■ 23-03 神無七郎 協力詰 21 手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 角

45 角 36 飛 同角 同と 47 飛 37 飛  
同飛 同銀生 25 飛 26 飛 同飛 同銀成  
47 飛 37 角 同飛 同と 45 角 36 成銀  
同角 17 玉 26 銀まで 21 手

神無七郎— 16 手掛けて銀を裏返す手順。

握り詰でなければもう少し凝るところですが、結局素材そのままです。

☆もう少し凝った図も見てみたいです。

雲海—初形と 16 手目の局面を比べると…銀が成銀になっている！

たくぼん—全ての駒をうまく使いきって銀の成らせを実現。完成度高いですね。

隅の老人B—成銀で移動合。巧いものだ、つくづく感心。ただ、44 歩の意味が判らない。

☆ 10 手目 26 角、同飛、同玉、44 角以下の早詰を防止しています。

■ 23-04 たくぼん 協力詰 23 手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
								入	六
				科		科	糸	馬	七
				桂	歩		王	糸	八
				桂	と	雫		爵	九

持駒 なし

39 と 同玉 29 金 48 玉 39 金 59 玉  
 49 金 68 玉 59 金 67 玉 68 金 56 玉  
 67 金 47 玉 57 金 36 玉 28 桂 同角生  
 47 金 26 玉 37 金 17 玉 29 桂 まで 23 手

たくぼん—こんなものしか出来ないとは…申し訳ない。

隅の老人 B—何処までも金が付いてくる、羨ましいなあ。どうして 49 との配置なの？ 楽しく解けて、課題が握り詰を忘れてた。

☆頭の 2 手は露骨ですが、やむを得ないのでしょね。

雲海—前半は絶連であっても、どうやって詰ますのかなと思っていましたが、持駒に桂があったらやっぱり吊るし桂ですよね。

神無七郎—後の経路を空けるための 48 歩・59 桂の消去、収束に備えた角生。どれも軽い伏線ですが、謎解き重視の作風は握り詰でも出ていますね。

☆作風はどうしてもにじみ出てしまうのでしょうか。もはや体質と化している？

■ 23-05 神無三郎 協力詰 37 手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
					科				一
					科	糸		王	二
					雀	雫		糸	三
						爵	糸	桂	四
									五
									六
									七
								歩	八
									九

持駒 桂歩

22 桂成 同玉 14 桂 11 玉 12 歩 21 玉  
 11 歩成 31 玉 22 桂成 同玉 12 と 23 玉  
 13 と 同玉 14 歩 12 玉 13 歩生 22 玉  
 12 歩成 23 玉 22 と 13 玉 23 と 14 玉  
 24 と 15 玉 16 歩 26 玉 27 歩 35 玉  
 34 と 同桂 44 銀 24 玉 33 銀生 14 玉  
 24 金 まで 37 手

雲海—序盤は細かい手順で我慢。最後は金銀とれてホクホク。

神無七郎—最後の 11 手が解図上の難関。それまでは定番の展開ですが、握り詰だと定番の展開に持ち込めただけでも良しとしなくてはいけませんね。

たくぼん—収束でちょっと考えたくらいですが、流れは好きです。

☆と金追いに持ち込むまでの流れが心地良いですね。

隅の老人 B— 28 歩を 2 歩禁のためと思い込んで苦戦。まさか、収束に動くとは！、です。

☆2 歩禁の意味も兼ねているようです。すなわち、3 手目 23 歩以下の早詰を防止しています。

■ 23-06 神無三郎 協力詰 41 手

										一
										二
										三
										四
										五
					金		料			六
歩	歩	歩	歩	桂	歩					七
							桂			八
				桂	王	將	角			九

持駒 なし

38 角 58 玉 49 角 69 玉 58 角 78 玉  
 69 角 89 玉 78 角 98 玉 89 角 87 玉  
 98 角 78 玉 89 角 69 玉 78 角 58 玉  
 69 角 49 玉 58 角 38 玉 49 角 29 玉  
 38 角 18 玉 29 角 27 玉 18 角 37 玉  
 36 金 38 玉 37 金 49 玉 27 角 38 飛  
 同角 58 玉 49 角 57 玉 58 飛 まで 41 手

雲海一角追いができたのですねえ。成駒ゼロの初形が綺麗。

隅の老人Bー握り詰で、この趣向、楽しいな、楽しいな。最後の飛合も巧かった。

神無七郎ー飛合・金合は角追いの敵。これが出ると角追いは一瞬で終わります。でも握り詰のようにとりあえず完全作に仕上げなくてはいけない場合は、無難に終わらせることのできる飛合・金合はとても便利。

☆たとえ趣向としては中途半端でも、完全作には換えられませんからね。

たくぼんー 57 桂は不要駒？まあ気になりますけどね。趣向手順を入れるとはさすがです。

☆あれ？ どうもそのようです。ちょっと残念かな。

【総評】

神無七郎ー協力詰で握り詰はキツイですねえ。自作も含め、完全作にするだけで精一杯という様子が伝わってきます。

□ちょっと意外だったのは、空中捕捉型の作品がなかったこと。桂4枚+角で中段玉の詰上りの作はひとつはあると予想したのですが…。自分で作っておけば良かったかな？

☆ JIGSAW BOX みたいに「プラスマイナス1枚は可」とかにすべきでした。今さら遅いですが…。

隅の老人Bー 難解作なし、これが嬉しい。

私のような非力なものには、「協力詰、かくあるべし」、です。

☆もっと解答者が増えてくれるといいんですけどねえ。

Fairy of the Forest #24 課題発表

■ 2010年06月18日：課題発表：使用駒七色または盤面七色（協力詰）

□ 2010年07月15日：投稿締切

□ 2010年07月18日：出題

□ 2010年08月15日：解答締切

□ 2010年08月18日：結果発表

■ 課題発表

今回は少し前にたくぼんさんから提案があった「使用駒（または盤面）七色」とします。無難な課題かな？

前回の投稿締切を1月延ばしたシワ寄せで、創作期間がいつもより短くなっていますが、ご投稿よろしくお願ひします。

（投稿先）

→酒井博久（sakai8kyuu@hotmail.com）

# 詰将棋メモ

## 推理将棋第 33 回出題解答

担当 タラパパ

出題日 : 2010年5月6日  
 解答締切 : 2010年5月20日

### 33-1 初級 タラパパ作 束縛の飛車 8手

弟子「師匠、どうして8手で詰まされちゃったんでしょう？」

弟子「駒成のない淡白な将棋は得意なのに」

師匠「どうしてもこうしても、3手指し終わった局面見てみなさい」

師匠「君の飛車、どこにも動けないじゃないか。これで勝てるわけがなかるうよ」

(条件)

- ・ 8手で詰んだ
- ・ 3手指し終えたら先手の飛車は動けなくなった
- ・ 駒を成る手はなかった

### 出題のことば (担当 タラパパ)

3手目で飛車を束縛できる場所は3ヶ所。正しい場所はどこ？

### 追加ヒント:

金を寄る手が出てきます。

### 推理将棋第33回解説 担当 タラパパ

今月の難易度設定は完全に出题者の敗北に終わりました(泣)

解答者の皆さんの意見を総合すると、中級がもっとも難しく、初級と上級がほぼ同じ位の難易度だとか。

手順解析済の初級問題はともかく、中上級の評価は上々でした(^^)

### 推理将棋 33-1 解答

▲7八飛、▽3四歩、▲6八玉、▽6六角、  
 ▲5六歩、▽3九角不成、▲5九金右、▽5七銀 まで8手

### 詰上り図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香	
二		飛								
三	歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	
四							歩			
五										
六				歩						
七	歩	歩	歩	歩	銀	歩	歩	歩	歩	
八		角	飛	王						
九	香	桂	銀	金	金		銀	桂	香	

持駒 なし

3手で飛車が動けなくなる、風潰しにしても3箇所5局面しかありません。このうち8手で詰があるのは18香、28飛、38金型と78飛、68玉型の2局面だけ。前者は7手基本手順+遊び手で58金までの詰上がりですが、角を成らないと詰みません。もっとも作意を探すという面から見るとそんなことより、出題条件では18香と38金の手順前後が消えないので、68玉型しか残りません。

正解手順は、飛車が玉の逃げを塞ぐことのできる唯一駒として、きっちり貢献してくれる68玉型でした。

**はてるま** 「かなり考えました。後手77角を最初に考えてしまうので、かえって68玉とする手が見えづらくなっているのも一因でしょうか。たしかに見たことのあるような詰め上がりなのですが、なかなか閃きませんでした。8手もまだまだ奥深い世界ですね。」

■定跡的な77角を中心に考えると、意外に気付きにくいのかもかもしれません。

**ミニベロ** 「笑える条件ですが、よく考えられている。『駒を成る手はなかった』の条件は、



単なる非限定消しではなかった！」

■お笑い条件も推理将棋の華の一つですものね。

**渡辺** 「3手での飛車の閉じ込め方は3通りしかないので順に考えれば易しい。38金から18香だと馬利用で詰むので、2番目の条件は成生限定ではありません。」

■ミニベロさんもですが、そこまで読んでくださると嬉しい。

**リーグ戦ファン** 「7手詰め筋の最初に無駄な飛車の手、と予想して考え始め、第一感は▲68金▽同角・・・この筋は成らないと詰まない。解いて見れば詰め上がりに飛車が必要。エレガントです。」

■68銀、同角なら成らなくても詰むのですが、68銀と上がると78飛の動く場所が出来て、条件違反になるところがミス。

**DD++** 「8手詰めリストのカニングなしでやったらなかなかの苦戦。「18飛、28銀」は8手で詰むわけもなし、「18香、38銀」も最初から72銀とする7手詰めはないはず、「78飛、68金」は、6手目に角が金を取る時に成ってくれないと詰まない、角による釘付けで動かせないのは4手目以降・・・と、68玉を見落とし丸1日迷走しました。この手順前後の限定の仕方はさりげないですがとてつもない妙条件ですね。普通ならこの手順前後の限定は3条件くらいかかりそうです。」

■56歩を突くタイミングがほぼ自由なことと、同じ68玉型で48角不成～57金（銀）の筋を避ける珍案を、無理矢理捻り出しました（笑）

**斧間徳子** 「『先手の飛車が動けなくなる』というのは斬新な条件ですね。」

■怪しさと紙一重のような・・・。

**はらたつと** 「初め78飛、68金かな？とずっと考えていてハマりました。推理将棋の館の8手詰分類結果を見て68玉型をイメージしたら解けました」

■ちなみに”推理将棋の館”とは、大橋光一さんが開設するサイトで、mix i 会員なら推理将

棋コミュが一覧表経由で見られます。

**たくぼん** 「18飛、34歩、28銀・・・あれ？ダメだ。最近勘が当たらない」

■たくぼんさん、いつも”ありそうにない”順から探すからですよ（笑）

**竹野龍騎** 「7手目同金なら先手優勢か。」

■鋭い！って・・・5手目同歩でしょうが！

**S.Kimura** 「すぐに答えが分かったので、気が楽になりました。」

■初級は誘い水ですから。

**隅の老人B** 「王で飛を缶詰にするのが、盲点。最初は金銀で考えた。」

■ぜひとも指将棋の実戦でお試してください。道場で評判になること請け合いです。

**○術師** 「3手目で動けなくなった飛車は、4手目の次には動けるようになるんだろう・・・と、ヘンな決め打ちをして失敗しました。」

■なるほど、そういう読みがありましたか。これって、解答者心理ですよ。

**鈴木康夫** 「8手詰のパターンの一つですね。3手目に飛が動けなくなる手順を風潰しにしたら解けました。」

■8手だと風潰しにしてもたかが知れているところがメリット。

-----  
正解：15名

S.Kimura さん 斧間徳子さん 鈴木康夫さん  
隅の老人Bさん たくぼんさん 竹野龍騎さん  
躑躅さん DD++ さん はてるまさん  
はなさかしろうさん はらたつとさん  
○術師さん ミニベロさん  
リーグ戦ファンさん 渡辺さん  
-----

### 33-2 中級 けいたんさん作 いちご白書 11手

「さっきの将棋 11手で詰んだんだった。1筋と5筋に角打ちがあったよね」  
「ああ、成る手はなかったよ。それから先手は奇数筋の着手しか指さなかったな」

(条件)

- ・ 11手で詰んだ
- ・ 1筋と5筋に角打ちあり
- ・ 成る手なし
- ・ 先手は奇数筋の着手しか指さない

さて、どんな将棋でしょう？ 推理してくださいね。

#### 出題のことば (担当 タラパパ)

後手が指した、意外な角打ちの場所が閃くでしょうか？

#### 追加ヒント：

止めは歩突きです。

#### 推理将棋33-2 解答 担当 タラパパ

- ▲7六歩、▽4二玉、▲3三角不成、▽同玉、  
▲1六歩、▽1七角、▲同桂、▽2四玉  
▲5一角、▽1四玉、▲1五歩 まで11手

#### 詰上り図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇	科	龍	角	角	龍	科	皇		
二		飛					皇			
三	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩		
四								王		
五								歩		
六			歩							
七	歩	歩		歩	歩	歩	歩	桂		
八								飛		
九	香	桂	銀	金	王	金	銀		香	

持駒 歩

角を打つ手が2度。これがどちらの指し手なのか、それが一つの謎なのですが、先手が2度角を打つためには、その間にどうしても、後手が打った角を先手が取らないといけない。つまり11手に角を打つ手が3度必要で、かなり厳しい条件になります。この作品を解くには、2度の角打ちは「先手&先手」ではなく、「先手&後手」と決め付けることが肝要。

奇数筋条件がありますから、先手が角を取れる最速は5手目。22角を取るにはと考えると、76歩、34歩、??? (将来役立つ手)、33角、同角不成、同桂、??角・・・ここで後手に角を打って貰って、それを取って・・・。こんな手順に誘われませんか？ これこそ、まんまと作者の罠にハマってしまう思考回路。

角を打つ順番は先手～後手ではなく、後手～先手が正しく、先手は後手の22角を狙わないのです。先手の角が後手に渡り、また先手に戻ってくる手順。25を塞ぐのに、26歩よりも味の良い17桂を採用させる奇数筋条件が秀逸でした。

はてるま 「角のやりとりがトリッキー。最後15、ていうのもシャレてますね。」

■いちごは2粒でした。題名は「いちご白書もう一度」もありかと(^^)

ミニベロ 「これは本格的な推理将棋です。恐らくこれが今回の最難問。」

■たしかに(汗)。

渡辺 「最初の角打が後手であることがポイントですね。76歩、34歩、22角生から先手が先に角を打とうとするとはまります。最後の条件は「16歩、17角、同桂」のところを「26歩、16角、同歩」とされないための条件ですね。」

■同時に手順前後(16歩、26角、同歩)を許さない配慮もありそう。

リーグ戦ファン 「手数からして角打ちは双方一手ずつ。最初は▲17角打▽51角打▲53角成を少し考えたのですが、先手1筋角打では駒成がないと詰め形がなさそう。残る後手1筋角打の場合は、▲同\*を詰め形に活用したいな、と考えたら、すすつと解がありました。これは綺麗な手順です。※本当にここまで書いて

気付いたのですが、私の回答は5手目から▲  
26歩▽16角▲同歩・・・ダメじゃん！焦って修正・・・おお、できた。モデルメイトになって、ますます綺麗ですね。」

■26歩は偶数筋。17角には妙手感がありますね。

**DD++** 「あえてギブアップとさせていただきます。いやまあ、答えは「・・・(担当者註：正解)」だってことは知っているんですが・・・この問題は初めて見た時には1ヶ月以上かかりました。もしおもちゃ箱が初見だったら余裕の時間切れですので、答えは知っていますがあえて無解で提出します。でないとい他の解答者の方々と公平でないですしね。タイトルが1筋5筋を意味するだけかと思いきや、トドメが15とダブルミーニングにしてあるところに感心します。ところで、私はいちご白書の元ネタをどちらも知らない(まだこの世にいない)のですが、みなさんとはだいぶ年齢がはなれてたりするのでしょうか。」

■もしもDD++さんがヒントを読まれていたら、1ヶ月かかることはなかったでしょうから、(手順も書かれていますし)ギブアップは却下としました。映画は1970年、ユーマン作詞作曲の「いちご白書をもう一度」が1975年。担当者のような団塊世代には堪らない曲です。DD++さんとは相当年齢が離れています(笑)

**斧間徳子** 「後手の2二角を取ることを考えるとハマる問題ですね。解後感よし！」

■まさに。目の前のニンジンに手を出さないことです。

**はらたつと** 「角交換から互いに打ち合う筋をちょっと検討しましたが、詰める場所がなかなか見つからず・・・暗中模索・・・。いちご白書は、詰め上がり玉が15の位置か最終手が15かな?と思ってたところにタラパパさんからのヒント『最後は突き歩』で最終手15歩に決め打ちしたらあとは一気にヒラメキました。タラパパさんGJ」

■ヒントを活用して下さったことこそGJでしょう(^ ^)

**躑躅** 「この問題だけ数日間残っていました

が、「歩突きまで」のヒントが無ければ絶対まだ解けてませんでした。」

■もとい、やはり私のGJだ(笑)

**たくぼん** 「最初は題名より15角ばかり読みました・・・そして51角へ。26歩が突きたくて仕方なかったが、その替りの17角、同桂には驚嘆」

■17角、同桂。味がいいですよねぇ。

**S.Kimura** 「角を打ち、駒を取って詰ますことばかり考えていたので、ヒントがなければ、この展開は想像すらできなかったでしょう。」

■やはり難しいんだ・・・。

**隅の老人B** 「残念、解けず。解答を楽しみに待つ。」

■げげっ！こりゃ上級でした。ごめんなさい<(\_)>

**はなさかしろう** 「効率重視で玉が端に露出する手順を進め、更に手順限定の裏推理にも手を染めてしまいましたので、詰みにはするすると辿り着いたのですが、核になる強い束縛条件がないので正攻法では難しかったと思います。

76歩 34歩 77角 同角不成 同桂 54歩  
53角 15角...も一手足らず、この条件で余詰を消してしまっているのが驚きでした。」

■手順限定の裏推理、ズルでも何でもない解法と考えたほうがよいと思うのですが・・・。

-----  
正解：11名

S.Kimuraさん 斧間徳子さん たくぼんさん  
躑躅さん DD++さん はてるまさん  
はなさかしろうさん はらたつとさん  
ミニベロさん リーグ戦ファンさん 渡辺さん

-----  
33-3 上級 DD++さん作  
飛車冠 12手

「昨日将棋で12手で勝ったんだ」  
「圧勝だね。勝因は？」

「最初も最後まで玉頭の飛の手を指したことかな。」

「へえ、じゃあ相手の敗因は？」

「最初も最後まで玉頭の飛の手を指したことかな。」

「え？」

(条件)

- ・ 12 手で詰んだ
- ・ 2 人とも、最初も最後まで玉頭の飛の手

※ 飛の手とは、「棋譜に飛の文字が入る手」を意味とします。「○○飛」「○○飛不成」「○○飛成」「○○飛右」など。「○○龍」はNG。玉頭とは自玉・相手玉を問わず、玉のすぐ上のマス（59 玉なら 58 地点）のこと。

### 出題のことば (担当 タラパパ)

初手と2手目は絶対。手順の多くが同じ「ある筋」の手です。

### 追加ヒント：

「ある(同じ)筋の手」が10回出てきます。

### 推理将棋 3 3 - 3 解答 担当 タラパパ

▲5八飛、▽5二飛、▲5六歩、▽5四歩、  
▲5五歩、▽同歩、▲同飛、▽1四歩、  
▲5八玉、▽1三角、▲5七飛、▽同飛成  
まで12手

### 詰上り図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇	科	爵	季	王	季	爵	科	皇	
二										
三	歩	歩	歩	歩		歩	歩	歩	皇	
四									歩	
五										
六										
七	歩	歩	歩	歩	王	歩	歩	歩	歩	
八		角			王					
九	香	桂	銀	金		金	銀	桂	香	

持駒 歩

手数以外にたった1つの条件(言葉の長さより覚え易さ)で成り立つ作品が、かなりの数作られています。最多手数が9手で、これだけで約百局。ところが12手となると極端に減り、本局でようやく4局のようです(確信なし)。それだけ希少価値のある作品。

出題の文章、「勝因は?」「最初も最後まで玉頭の飛の手を指したことかな」「じゃあ相手の敗因は?」「最初も最後まで玉頭の飛の手を指したことかな」、何度読み返しても粹なやり取りです。こんな出題文、出してみたいと思いませんか?

担当者にとってはこれ、決して易しくなかったので上級にしたのですが、「易しい」の声がわお〜んと響いて担当者撃沈。

はなさかしろう 「最終2手も先手玉が58で、57飛、同飛成が必然なので3問の中で一番簡単でした。」

■あちゃちゃ、そんなに簡単でした?

はてるま 「これは条件を先に設定して、最短手数を求める形で作ったのでしょうか?最短手順が無駄なく自然に限定されていることはよく経験しますが、これはうまくはまりましたね。アイデアの勝利と思います。佳作。」

■なにしろ1条件ですから。

ミニベロ 「ふざけた条件に巧みな手順。推理将棋にはお笑いの要素も不可欠ですね!」

■まさに、まさに。絶対に不可欠だと思います。お笑い系に面白い作品が多いのもまた事実。

渡辺 「問題文を読みながら最初に思い浮んだ手順を確認したら詰んでいました。これで成立なら見事な1条件ですね。」

■時間かけて解いて、上級で出題した人・・・立場ないじゃん。

リーグ戦ファン 「詰め上がりは▲57飛▽同飛成かな、とりあえず両方の飛車を縦に活かそう、と、歩を突きあってみたら、手なりで解けちゃいました。全てが限定され、一条件で済んでいるところはなんとも美しいです。」

■た、立ち直れない。

**作者** 「11手目は一見数合わせに見えて、唯一12手目の詰みを生じる妙手だったりします。12手で玉頭の飛の手4回の手順2つのどっちを投稿するか迷いましたが、条件がきれいなほうを出しました。ちなみにもう片方は、「12手で詰み/初手と2手目を含み玉頭の飛の手4回/歩を打った」で、実は手順自体はこちらの方が面白いです。興味があればぜひどうぞ。」

■う〜む、浮かばない。難しそう。

**斧間徳子** 「この少ない条件ですべてが割り切れていることに感心。」

■発想の勝利でしょうか。

**はらたつと** 「勝手な思い込みで飛交換して玉頭打ちで手数が足りなく悩みました。タラパパさんヒント5筋10回で14歩13角の筋で検討し『飛は引けばいいんだ』と気が付きましたとさ。めでたしめでたし。」

■いやあ、めでたしめでたし♪ 悩んだ人第二号がいらっしやいました。

**たくぼん** 「条件もヒントも良心的で、解答者にとっては気持ち良く解ける良問」

■手順前後の一つも出そうなものですが。

**竹野龍騎** 「素晴らしくすっきりした条件。」

■通勤中でも会議中でも、周りに悟られずに解ける問題。これが1条件の魅力。

**S.Kimura** 「最後が57、同飛成ぐらいしか思いつかなかったので、割と簡単に解けました。」

■止めの2手の応酬が、さっと浮かんだら早いんですね。自分の敗因がよく分かりました。

**隅の老人B** 「玉頭の飛、この言葉に惑わされて、飛ばかりを動かした。解ければ成る程、日本語は難しいや。」

■推理将棋でよく思うこと・・・日本語の難しさ。誰もが経験しますね。

**はなさかしろう** 「綺麗な一条件ですが西部劇の決闘みたいなコミカルな手順で笑ってしまいました。詰め上がりが推測しやすいし、同じ歩を続けて突いたり歩を突いて角を覗いたり、裏推理の定番でもあるので難しくはなく、面白い問題でした。」

■西部劇風ですか。撃ち合ったのは銃ではなく大砲でしたが（笑）

正解：14名

S.Kimuraさん 斧間徳子さん 鈴木康夫さん  
隅の老人B たくぼんさん 竹野龍騎さん  
躑躅さん DD++さん はてるまさん  
はなさかしろうさん はらたつとさん  
ミニベロさん リーグ戦ファンさん 渡辺さん

## 総評

**ミニベロ** 「初級にあれを持ってきたところを見ると、いよいよ在庫も尽きてきたか。難問ならいくらでもあるのにね。」

■いよいよ難問揃いという出題もしなくては。

**リーグ戦ファン** 「今回は脳内解きで 5分・50分・50秒でした。泊レベルがほしいかも・・・」

■早っ！そんなことをいうと『魔性の作品』を出しますよ（笑）

**DD++** 「前回今回と連続で「歩について相手の歩を取り飛車を活かす手順」が上級に据えられているのですが、この系統はあまり数も見ませんし、やはり難しいのでしょうかね。それともタラパパさんが苦手なだけでしょうか（笑）？さすがにいちご白書よりも上になるとは思っていなかったので、びっくりしました。飛車を活かすといえば、最近急に飛車を使う問題の割合が増えた気がしますね。流行なんでしょうか。私が出題する前の30回とか31回とかも2問ずつありますよね。」

■私が苦手ってバレちゃいました？ ところで、そんなに飛車問題が増えてますか、気付きませんでした。

**隅の老人B** 「先日は棋書をお送りいただき、有り難う御座いました。おもちゃ箱の推理将棋が全題解けたら、読もうと思いましたが、結局、全題が解けず、未だに封は開けましたが、未読です。20日、推理将棋の締め切り日。2題だけでも解答しようです。宜しく、お願いします。『月下美人』、有り難う御座いました。」

■創棋会作品集『月下美人』、今は手に入りにくそうな本。私も持っていません。おもちゃ箱は稀書収集の隠れた宝庫です

**はなさかしろう** 「今回は手順限定の裏推理でつつい近道してしまいました...。」

■人の頭の中を読むような推理将棋。裏推理は常道ですから。

推理将棋第33回出題全解答者： 15名

S.Kimuraさん 斧間徳子さん 鈴木康夫さん  
隅の老人Bさん たくぼんさん 竹野龍騎さん  
躑躅さん DD++さん はてるまさん  
はなさかしろうさん はらたとさん  
○術師さん ミニベロさん  
リーグ戦ファンさん 渡辺さん

当選： 躑躅さん

再びTシャツメーカーより



(名前を勝手に使ってすいません・・・)

# 「集積回路Ⅲ」が甦る!

神無七郎

小野小町氏の「集積回路Ⅲ」に従来知られていた早詰順より更に短い詰手順がみつかりました。しかもこの手順は従来の早詰順と違い駒が余らないため、これを作意と置き換えればこの作を完全作として扱うことも可能になります。まずはその「集積回路Ⅲ」の図をご覧くださいませしょう。

## 協力自玉詰 3944手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
㊦									銀
㊦							金	銀	
㊦		𠄎					歩		香
㊦	金		金				桂		
㊦			金						
㊦	角					桂	桂	歩	
㊦		銀	銀				王		
暁	歩	歩	歩	香	歩	桂	香		
㊦	㊦	㊦	㊦						王

持駒 飛歩

小野小町作 ばか自殺詰 原作意 6000 手  
「集積回路Ⅲ」(早詰 3944 手・駒余り)  
1990 年 2 月詰将棋パラダイス

「集積回路Ⅲ」は 1990 年 2 月に詰将棋パラダイスで発表された、ばか自殺詰(協力自玉詰)の超大作です。ずらっと並んでいる「と金」と香をはがし、遙か 73 地点に居る馬を 19 まで呼んで詰型を作る壮大な構想作で、特に 9 筋での呼出し機構は非常に巧妙。早詰がなければ賞を取っていてもおかしくない作でした。発表時の作意手数は 6000 手だったのですが、残念ながら 3944 手で歩が 3 枚余る解が発見されています。

さて、今回新たに発見されたのは 9 筋のと金を最初に呼出す所と、収束の 2 箇所です。まずは、この作品の 396 手目をご覧ください。

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
㊦									銀
㊦							金	銀	
㊦		𠄎					歩		香
㊦	金		金				桂		
㊦			金						
㊦	角					桂	桂	歩	
㊦		銀	銀				王		
	歩	歩	歩	香	歩	桂	香		
									王

持駒 飛香歩4

(「集積回路Ⅲ」396 手目の局面)

### 【従来の詰手順】

89 飛 39 飛 同飛 18 玉 19 歩 17 玉  
18 歩 16 玉 17 歩 15 玉 16 歩 14 玉  
15 歩 同玉 35 飛 14 玉 19 飛 15 歩  
同飛上 23 玉 25 飛右 14 玉 23 飛成 同玉  
25 香 14 玉 15 歩 同玉 23 香成 25 飛  
同飛 14 玉 24 飛 15 玉 14 飛 同玉  
24 杏 15 玉 25 杏 16 玉 14 飛 15 飛  
同杏 17 玉 16 杏 18 玉 17 杏 19 玉  
18 杏 29 玉 19 杏 39 玉 29 杏 49 玉  
39 杏 59 玉 49 杏 69 玉 59 杏 79 玉  
69 杏 89 玉 79 杏 98 玉 98 飛 同と  
89 杏 同玉 19 飛 79 飛 同飛 同玉  
59 飛 69 飛 同飛 同玉 49 飛 59 飛  
同飛 同玉 39 飛 49 飛 同飛 同玉  
29 飛 39 飛 同飛 同玉 19 飛 29 飛  
同飛 同玉 99 飛 89 と(下図)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
㊦									銀
㊦							金	銀	
㊦		𠄎					歩		香
㊦	金		金				桂		
㊦			金						
㊦	角					桂	桂	歩	
		銀	銀				王		
	歩	歩	歩	香	歩	桂	香		
飛	㊦								王

持駒 歩3

(「集積回路Ⅲ」従来手順 490 手目の局面)

この作品では 9 筋のと金を 1 つ呼出すのに、

96手という長大な手数を要します。ただ、この局面に限ってはすでに香を持っているので、合駒を稼ぐ必要もなく、94手で呼出しを終えています。この後は1筋で適度に歩や香を補充しながら残りのと金を呼出してはがします。

さて、今回発見された早詰順では手数も短く歩も余分に稼ぐことができます。

【新たに発見された早詰順】

17飛 18飛 同飛 同玉 19歩 17玉  
 18歩 16玉 17歩 15玉 45飛 35飛  
 同飛 25歩 16歩 14玉 15飛 23玉  
 25飛右 14玉 23飛成 同玉 25香 14玉  
 15歩 同玉 23香成 25飛 同飛 14玉  
 24飛 15玉 14飛 同玉 24杏 15玉  
 25杏 16玉 14飛 15飛 同杏 17玉  
 16杏 18玉 17杏 19玉 18杏 29玉  
 19杏 39玉 29杏 49玉 39杏 59玉  
 49杏 69玉 59杏 79玉 69杏 89玉  
 79杏 99玉 98飛 同と 89杏 同玉  
 19飛 79飛 同飛 同玉 59飛 69飛  
 同飛 同玉 49飛 59飛 同飛 同玉  
 39飛 49飛 同飛 同玉 29飛 39飛  
 同飛 同玉 19飛 29飛 同飛 同玉  
 99飛 89と (下図)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
㊦									銀
㊦						金	銀		
㊦		㊦				歩		香	
㊦	金		金			桂			
㊦			金						
㊦	角				桂	桂	歩		
		銀	銀			王			
		歩	歩	歩	香	歩	桂	香	
飛	㊦						王		

持駒 歩4

(「集積回路Ⅲ」新早詰順 488 手目の局面)

飛合を9段目ではなく5段目で稼ぐのがこの手順のポイント。結果発表時に「非限定が多いので65金は45金とした方が良い」という森茂氏の意見がありましたが、この早詰を消すためにも45金の方が良かったと言えると思います。

さて、早詰手順はもう一つあります。現在発見されている最短解である3944手解の3842手目をご覧ください。

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									銀
						金	銀		
						歩		香	
	金		金			桂			
			金						
	角				桂	桂	歩		
		銀	銀			王			
㊦	歩	歩	歩	香	歩	桂	香		
							王		

持駒 飛

(「集積回路Ⅲ」従来手順 3842 手目の局面)

【従来の詰手順】

49飛 39飛 同飛 18玉 19飛 同玉  
 99飛 89飛 同飛 同馬 15飛 16飛  
 同飛 17歩 79飛 同馬 17飛 18飛  
 同飛 29玉 19飛 同玉 15飛 16飛  
 同飛 17歩 69飛 同馬 17飛 18飛  
 同飛 29玉 19飛 同玉 15飛 16飛  
 同飛 17歩 59飛 同馬 17飛 18飛  
 同飛 29玉 19飛 同玉 15飛 16飛  
 同飛 17歩 49飛 同馬 17飛 18飛  
 同飛 29玉 19飛 同玉 15飛 16飛  
 同飛 17歩 39飛 同馬 17飛 18飛  
 同飛 29玉 19飛 同玉 15飛 16飛  
 同飛 17歩 29飛 同馬 17飛 18飛  
 同飛 同玉 19歩 17玉 18歩 16玉  
 17歩 15玉 25飛 14玉 23飛成 15玉  
 16歩 同玉 25龍 17玉 18歩 同玉  
 19歩 同馬 16龍 17飛 27龍 同飛  
 まで 3944手

今回新たに見つけた早詰では、最初に紹介した早詰順で得た歩1枚を取っておくことにします。歩を稼がなくても同様の早詰が成立しますが、歩を残していると、ここで4手短くできるからです。では、その手順をご覧ください。

【新たに発見された早詰順】

99飛 89馬 同飛 39飛 18角 同玉  
 19歩 同玉 39飛 29角 16飛 17香  
 同飛 18歩 同飛 同玉 19歩 17玉  
 18歩 16玉 17歩 同玉 19香 18飛  
 同香 同角生 27飛 同角生 19飛 18飛



同飛 同玉 15 飛 16 飛 同飛 17 香  
19 飛 同玉 17 飛 18 飛 同飛 同角成  
39 飛 29 飛 同飛 同馬 16 飛 17 飛  
同飛 18 歩 同飛 同玉 19 歩 17 玉  
18 歩 16 玉 17 歩 15 玉 25 飛 14 玉  
23 飛成 15 玉 16 歩 同玉 25 龍 17 玉  
19 香 18 飛 同香 同玉 19 飛 同馬  
16 龍 17 飛 27 龍 同飛 まで 3916 手

馬を一旦盤上から消して合駒として再生し、わずかな間隙を縫って 19 に送り込んでいます。余詰にしておくには勿体ない好手順ですね。

冒頭に「これを作意と置き換えればこの作を完全作として扱うことも可能」としましたが、これはあくまで「可能」というだけであって、「適切」かどうかは別問題です。この作品の主題はあくまで「最長距離の呼出し」で、73 馬を延々 91 から 19 まで引っ張ってくるのが作者の意図でした。上記の手順は確かに巧妙ですが、これを修正として作意に取り込むかどうかは、やはり作者ご本人の判断によると思います。

筆者は f m 等を使って「集積回路」シリーズをはじめとした協力自玉詰の中長編の検証作業を行っています。協力自玉詰は難物が多く、あまり作業は進んでいません。まとまった報告はかなり先になりそうですが、今回のように顕著な結果が得られた場合は、随時その成果を報告していきたいと思っています。

以 上



# 妖精賞の系譜 (11)

## 第 15 回 妖精賞 (2002年)

この期も、読者投票による選考を行い投票者が 12 名。集計の結果妖精賞を決定した。

### 【短編部門】

詰将棋パラダイス 2002 年 8 月号

内田 昭 作

ばか自殺詰 10 手

										9	8	7	6	5	4	3	2	1	
																			一
																			二
																			三
																			四
																			五
																			六
																			七
																			八
																			九

持駒 飛角2香2

27 香 同桂左生 11 角 同玉 91 飛 同龍  
99 角 同龍 19 香 同龍 迄 10 手

詰上図

																				9	8	7	6	5	4	3	2	1	
																													一
																													二
																													三
																													四
																													五
																													六
																													七
																													八
																													九

持駒 なし

片岩裕貴 (妖精賞発表時コメント)

4 隅連打と龍の盤面半回転を表現した内田作

が加賀作を抑えて受賞しました。

### 解説 (大崎荘太郎)

持駒 5 枚で 10 手なのでひたすら駒を打っていくこととなりますが、そのなかでいかにして玉方の龍を 9 段目に運ぶかというのが問題。

今川健一

初手 27 香打に始まる 3 連続の最遠打。あまりの凄さに放心の程。

駒井信久

四隅に着手!

天六辰年

この構図でこの手順表現は最高。

★ いやこれは素晴らしい作品ですね。解答者の心を掴む解後感抜群の作品です。私もこういうのを創ってみたいです。はい。

### 【中編部門】

詰将棋パラダイス 2002 年 10 月号

松さか子 作

安南詰 27 手

																													9	8	7	6	5	4	3	2	1	
																																						一
																																						二
																																						三
																																						四
																																						五
																																						六
																																						七
																																						八
																																						九

持駒 歩4

21 銀 13 玉 22 歩 12 玉 99 歩成 13 玉  
22 歩 12 玉 77 歩生 13 玉 22 歩 12 玉  
66 歩成 13 玉 14 銀 同玉 26 桂 15 玉  
27 桂 16 玉 15 金 27 玉 29 飛 38 玉  
28 歩 78 玉 88 と まで 27 手

詰上図

9	8	7	6	5	4	3	2	1		
							金	銀	歩	一
										二
								角		三
							香	桂		四
							銀	香	金	五
										六
			と				歩	桂		七
		歩							歩	八
	と	王							歩	九
									飛	

持駒 なし

片岩裕貴（妖精賞発表時コメント）

何も無い空間に摩訶不思議な駒の並びを発生させる松作が受賞しました。

片岩裕貴（担当）

打歩詰回避の構想作です。初手 21 銀には 13 玉が最善ですが、ここで歩を持って 22 歩とすると取る手は早いので、12 玉となって左下に歩またはと金を飛ばすことが出来ます。そこで、どういう配置を作るのがいいかということになるのですが、99 と、77 歩、66 とという配置を作るのが正解です。77 に生歩を置くことによって後の打歩詰を回避し逃げ場所を限定します。その効果が出るのが上部に追って行って 29 飛と両王手して 38 玉となったとき。なにもしないとここで 28 歩が打歩詰になりますが、77 歩を置いたことによって二歩禁により 78 に動けるようになっていきます。そして、99 と 66 のと金は 78 にいったときに詰ますための準備でした。

駒井信久

何も無いところに奇妙な駒の並びを発生させる面白さ。

★ 作者以外の正解者は駒井さん 1 名という超難解作。二歩禁を利用するという構想を見抜けなかった解答者が多かったのでしょう。普通詰将棋では結構構想作が発表されていますが、フェアリー詰将棋でももっと発表されてもいいような気がします。安南

ルールを利用した 4 香連合「オーロラ」なんて考えれば何とか出来そうに無いですか？本作は 77 歩を発生させ 78 玉と逃げる場所を作る・・・見事な構想でした。

【長編部門】

詰将棋パラダイス 2002 年 1 月号  
千々岩倫太郎 作 ばか詰 53 手

9	8	7	6	5	4	3	2	1		
										一
										二
										三
										四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 銀

89 銀 99 玉 88 銀 98 玉 99 銀 89 玉 98 銀  
88 玉 89 銀 79 玉 88 銀 78 玉 79 銀 69 玉  
78 銀 68 玉 69 銀 59 玉 68 銀 58 玉 59 銀  
49 玉 58 銀 48 玉 49 銀 39 玉 48 銀 38 玉  
39 銀 29 玉 38 銀 28 玉 29 銀 19 玉 28 銀  
18 玉 19 銀 29 玉 18 銀 28 玉 17 銀 39 玉  
28 銀 38 玉 39 銀 29 玉 38 銀 18 玉 19 歩  
28 玉 29 銀 17 玉 18 歩 まで 53 手

詰上図

9	8	7	6	5	4	3	2	1		
										一
										二
										三
										四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 なし

## 片岩裕貴（妖精賞発表時コメント）

銀鋸趣向の千々岩作が受賞しました。易しい趣向作ですが明快な癒やし系の作品ということが受けたのでしょうか。次点のもず作は歴史に残る作品だと思うのですが、ノーマルなばか詰とキルケ打歩ばか詰の競技人口の差がハンディとなってしまったのではないのでしょうか。

## 解説（片岩裕貴）

過去に何作も作られている銀鋸趣向です。したがって、目新しい作品というわけにはいかなのですが、それよりも、最初からこのような長手数作品に挑戦しようという姿勢は大いに評価されてよいと思います。初手に銀を打ってからは17歩を取るまでは一本道で、そこから収束となるわけですが、39玉と遠ざかるような手が好手で幕となります。初形を鶯図式にしたところなどは遊び心が感じられ期待度◎を思わせませす。

## 秋元節三

久しぶりに長編ばか詰を楽しんだ。

★ この期には、妖精賞発表の片岩さんのコメントにあるように、第17回神無一族の氾濫のもず作・キルケ打歩ばか詰 87手や神無太郎&神無八級作・キルケばか自殺詰 72手「ポエニクス」など傑作が目白押しであったが、読者投票により選ばれたのは千々岩作のばか詰。受賞は投票によるものですのでこれはこれで納得ですが、上記2作が受賞出来ないと言うのはなんともしなみに得票ポイントは、

1位 千々岩作 11 pt  
2位 もず作 8 pt  
↓  
5位 ポエニクス 5 pt  
でした。

## 解答募集締切一覧

ネットでのフェアリー詰将棋の解答募集締切一覧です。締切日が早いもの順です。解答先は各々異なりますのでお間違えにないように。

6月20日（日）

推理将棋 第34回出題

\* 推理将棋 3題

7月3日（土）

Onsite Fairy Mate 160回出題

\* キルケ受先協力千日手 1題

7月15日（月）

第23回WFPフェアリー作品展

7月15日（月）

第8回詰四会フェアリー作品展

\* フェアリー作品 2題

## 作品募集締切一覧

### 第9回詰四会フェアリー作品展

課題：桂が頑張っているフェアリー作品

投稿締切 2010年08月22日

（投稿先）

→たくぼん（[takuji@dokidoki.ne.jp](mailto:takuji@dokidoki.ne.jp)）

### Fairy of the Forest#24

課題：使用駒（または盤面）七色

投稿締切 2010年07月15日

（注）詳細は本号Fairy of the Forest#23結果稿をご覧ください。

2010年 第24号

## Web Fairy Paradise

非売品

平成二十二年六月号

平成二十二年六月廿日発行

発行所 愛媛県新居浜市

発行兼編集人 須川卓二

発行所 Web Fairy Paradise 編集部

問合せ先

須川卓二 [takuji@dokidoki.ne.jp](mailto:takuji@dokidoki.ne.jp)